

受け継ごう 命あふれる 清い海



第44回
全国

豊かな海づくり大会

うま
～ 美し国みえ大会 ～



大会応援マスコット とこまる

実績報告書

第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会

受け継ごう 命あふれる 清い海



第44回
全国

豊かな海づくり大会

～^{うま}美し国みえ大会～

実績報告書

本 編

大会概要	4～8
式典行事	9～29
海上歓迎・放流行事	30～38
お手渡し魚等の記念放流	39
作品コンクール（絵画・習字）優秀作品御覧	40
漁業関係者との御懇談	41
関連行事	42～46

大会開催のあゆみ

大会開催経過	48～50
大会テーマ、大会コスチュームデザイン	51
大会記念弁当	52
豊かな海づくりフェスタ	53
リレー放流	54～56
広報活動等	57～61
テレビ番組	62
テレビ・ラジオCM	63
大会公式ポスター	64

資 料 編

功績団体表彰	66
作品コンクール	67～75
新聞報道	76～80
広報制作物等	81～85
協賛・協力団体等	86～87
規約・組織	88～99

受け継ごう 命あふれる 清い海



第44回
全国

豊かな海づくり大会

うま
～ 美し国みえ大会 ～

本 編



大会概要

- 大会名称 第44回全国豊かな海づくり大会 ～美し国みえ大会～
- 主催 豊かな海づくり大会推進委員会
第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会
- 後援 農林水産省、環境省
- 開催日 令和7年11月8日（土）・9日（日）
- 開催場所 【式典行事】 志摩市阿児アリーナ（志摩市）
【海上歓迎・放流行事】 宿田曾漁港（南伊勢町）
【関連行事】 志摩市ともやま公園（志摩市）、
奈屋浦漁港（南伊勢町）、桑名港（桑名市）、
白塚漁港（津市）、尾鷲魚市場（尾鷲市）
- 参加者数 式典行事 790人
海上歓迎・放流行事 334人
関連行事 13,200人（5会場合計）
- 大会テーマ 受け継ごう 命あふれる 清い海
- 大会コスチュームデザイン
「第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」の
開催趣旨にふさわしいデザインを公募により決定

【大会応援マスコット】



とこまる

【大会コスチュームデザイン】



前 面

背 面

海づくり大会応援マスコット「とこまる」

「三重とこわか国体・三重とこわか大会」のマスコットキャラクターとして活躍した「とこまる」。伊勢えびをモチーフにし、現在も「みえスポーツ応援マスコット」であり、県のマスコットとして定着しています。



とこまる



三重県は、紀伊半島東部に沿って南北に細長く、温暖な気候と多種多様な環境の恩恵を受け古来から海・山の幸に恵まれ、日本書紀において、美し国(うましくに)と称されています。気候や風土、文化や歴史などから、地域ごとに特色ある伝統産業や農林水産業が営まれています。

静穏で遠浅の砂浜が広がる伊勢湾地域では、採貝や底びき網、船びき網などの漁船漁業で、アサリやハマグリ、カレイやエビ類、イワシ類、サワラ等が漁獲されるほか、黒ノリや青ノリ、ワカメが養殖されています。

陸水と外洋水が混じりあう伊勢湾口およびリアス海岸を有する鳥羽・志摩地域では、一本釣りやはえ縄、刺し網などの漁船漁業で、カツオやトラフグ、イセエビ等が漁獲されるほか、伝統的な海女漁業が営まれ、アワビやサザエ等が漁獲されています。また、英虞湾をはじめとする周辺の内湾では、本県が技術発祥の地である真珠をはじめカキや青ノリ等の養殖が盛んです。

黒潮の影響を強く受ける熊野灘地域では、まき網、定置網、棒受網などの漁船漁業によりサバ類などの多獲性浮魚類やブリ等が漁獲され、静穏な浦々の湾内では、マダイやマハタ等の魚類や青ノリ養殖といった特性の異なる様々な漁業が営まれています。

また、県内河川では、アユやアマゴを対象とした内水面漁業が行われており、生態系保全や河川環境の維持、自然の大切さを学べる交流の場の提供など将来にわたり内水面における多面的機能が発揮されるための取組を進めています。

本県では、昭和59年10月に志摩郡浜島町(現:志摩市浜島町)で、「第4回全国豊かな海づくり大会」を開催

しました。大会を契機に、漁業関係者が一丸となって栽培漁業の推進・定着、種苗生産・放流技術の向上、種苗生産施設の整備、稚魚育成のための漁場整備や漁業者による資源管理の実践など、豊かな海づくりに向けた取組を推進してきました。

しかし、近年は、伊勢湾における水質改善がみられる一方で、窒素やリン等の栄養塩類不足による黒ノリ養殖の色落ちが問題となっています。また、志摩半島以南の熊野灘では、気候変動や海水温上昇により藻場の減少が進んでおり、アワビやイセエビ等の漁獲に影響を及ぼすなど、漁場生産力が低下しています。

これらの環境変化により低下した漁場生産力を回復させ、豊かな海を再生するため、気候変動に対応した新たな養殖品種の開発や養殖水産物のブランド化の取組、伊勢湾における栄養塩類不足の改善に向けた取組を開始しています。また、漁業関係者による森づくり、海女等が主体となった藻場再生やアワビ資源増殖など、漁業者が主体となった取組を推進するとともに、本県の漁業が将来にわたり持続的に行えるよう、AI・ICT等のスマート技術を活用した養殖業の展開や科学的知見を踏まえた新たな資源管理や効果的な栽培漁業、藻場・干潟造成にも取り組んでいます。

本大会を通して、三重県の豊かな海や河川といった自然環境の保全に対する県民の意識向上を図り、水産資源を守り育てる取組をさらに推進し、豊かな海の再生に取り組む本県の漁業者の姿と県産農林水産物の魅力や歴史・文化を全国に広く発信していきます。





大会概要

基本理念

三重県の多彩な農林水産物や自然、歴史、文化等、本県が有する魅力を全国に広く発信することで、地域の活性化を図るとともに、大会開催を通じ、水産資源の保護・管理、海や河川などの水域環境保全、自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く周知し、水産業の持続的な発展と豊かな海や河川が次世代へ引き継がれていくことをめざします。

基本方針

1

持続的な水産業の 次世代への継承

海域ごとに特色ある豊かな漁場に恵まれ、古くから伝統的な海女漁業や三重県が技術発祥の地である真珠養殖業など、多種多様な漁業が営まれている本県において、漁業が将来にわたって継続的に営まれ、次の世代に継承されていく大会とします。

2

豊かな海や河川の恵みを 享受するための 水域環境の保全

伊勢湾の栄養塩類不足による黒ノリの色落ちや気候変動に伴う海水温上昇による藻場の減少など、私たちの生活が自然環境に与える影響への認識を県民や国民が深め、豊かな海や河川を次代に引き継いでいく大会にします。

3

多彩な魅力あふれる 「美し国みえ」の発信

いにしえより美し国として知られ、現在も「桑名のはまぐり」や「伊勢まだい」、「松阪牛」など海・山の食材に恵まれ、地域ごとに特色ある農林水産物や自然、文化、歴史を全国に発信し、本県が有する多彩な魅力を存分に感じられる大会とします。

会場地図



志摩市阿児アリーナ（志摩市）



宿田曾漁港（南伊勢町）



大会概要

参加者

行事名	会場	人数	内訳
式典行事	志摩市阿児アリーナ	790人	県内 271人 県外 519人
海上歓迎・放流行事	宿田曾漁港	334人	県内 174人 県外 160人
関連行事	豊かな海づくりフェスタ2025in志摩市ともやま公園（志摩市） ゆた海フェスタin 南伊勢町奈屋浦漁港（南伊勢町） 第23回赤須賀漁業まつり（桑名市） 第20回白塚おさかな祭り（津市） 第12回おわせ魚まつり（尾鷲市）	3,500人 2,000人 1,000人 2,200人 4,500人	各市町の 主催者発表
合計		14,324人	—

出演者

式典行事

区分		団体名等		
全体	司会進行	中久木 大力（三重テレビ放送） 北村 実穂（フリーアナウンサー）		
	ナビゲーター	瀬古 利彦 浅尾 美和		
プロローグ	伝統芸能	志摩市立東海中学校郷土芸能クラブ、安乗人形芝居保存会		
	和太鼓演奏	四日市諏訪太鼓保存会		
式典	全体	式典補助員・介添え	三重県立志摩高等学校	
		式典音楽隊	学校法人皇學館 皇學館高等学校 吹奏楽部	
	功績団体表彰	大会会長賞受賞者代表	鈴鹿市漁業協同組合（三重県） 矢田 和夫	
		農林水産大臣賞受賞者代表	熊本県立天草高等学校 科学部（熊本県） 田中 彩絵	
		環境大臣賞受賞者代表	泉佐野漁業協同組合（大阪府） 三好 正広	
		水産庁長官賞受賞者代表	鹿児島県立鹿児島水産高等学校（鹿児島県） 谷山竜之真	
	作品コンクール表彰	三重県知事賞受賞者代表	志摩市立神明小学校6年 東山 利香	
	最優秀作文の発表	発表者	鳥羽市立答志中学校3年 川原 瑠心	
	大会旗入場	歓迎ダンス	学校法人洗心學舎 しまの杜こども園 社会福祉法人洗心福祉会 しまの杜保育園	
		旗手団	三重県立水産高等学校	
	稚魚等のお手渡し	お受け者	尾鷲市海面養殖振興協議会 三鬼 大	
			三重県真珠養殖連絡協議会 谷口 博俊	
			三重県黒のり養殖研究会 木下 和行	
			松阪漁業協同組合 西 秀次 三重県立水産高等学校 山下 凜	
海づくりメッセージ	若手漁業者	三重外湾漁業協同組合 清水 清大		
	夫婦漁業者	鳥羽磯部漁業協同組合 山下 吉継・山下 梓		
	環境保全の取組実践者	鳥羽市立海の博物館 平賀 大蔵		
	ベテラン漁業者	白塚漁業協同組合 橋本 信満		
エピローグ	表彰式	功績団体表彰受賞者		
		作品コンクール受賞者		
	合唱	伊勢市立五十鈴中学校 合唱部		
演劇・ダンス	学校法人高田学苑 高田高等学校 演劇部 学校法人三重高等学校 三重高等学校 ダンス部			



大会概要

海上歓迎・放流行事

区分		団体名等	
海上歓迎・放流行事	全体	司会進行	奥村 莉子（三重テレビ放送） 代田 和也（三重エフエム放送）
		漁船披露	三重外湾漁業協同組合所属 47隻（志摩市、南伊勢町）
	漁法紹介	先導船	名古屋海上保安部 巡視艇 みやかぜ
		海女漁業	大正丸、光進丸、小川
		真珠養殖業	龍己丸、宝寿丸、第十二まる金丸、岡万丸
		いせえび刺網漁業	一弥丸、勝丸、政丸
		ふぐはえ縄漁業	多平丸
		定置網漁業	大征丸
		沿岸かつお一本釣り漁業	大山丸
		魚類養殖業	第三長栄丸
		まき網漁業	第五十一清洋丸
	三重県漁業調査船	あさま	
	音楽演奏	歓迎演奏	三重県立神戸高等学校 吹奏楽部
		和太鼓演奏	なぶら太鼓
	御放流介添え	三重県立南伊勢高等学校 南伊勢町立南勢中学校、南伊勢町立南島中学校	
放流合図		南伊勢町立南勢小学校	
		南伊勢町立南島西小学校	
		南伊勢町立南島東小学校	

おもてなし協力団体

内容	団体名等
おもてなし、募金	公益財団法人漁船海難遺児育英会 鷗方少年消防クラブ
	株式会社おやつカンパニー 株式会社マスヤ 井村屋グループ株式会社 有限会社山藤 株式会社養殖屋、ゼブラファーム株式会社
企画展示	三重外湾漁業協同組合、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン、株式会社アーバンリサーチ 志摩市 南伊勢町 三重県

スタッフ

区分	11月8日	11月9日	延べ
三重県	744人	886人	1,630人
志摩市	35人	35人	70人
南伊勢町	28人	28人	56人
三重県漁業協同組合連合会	10人	10人	20人
東日本信用漁業協同組合連合会 三重支店	3人	3人	6人
三重県漁業共済組合	2人	2人	4人
三重県JF共済推進本部	2人	2人	4人
日本漁船保険組合 三重県支所	2人	2人	4人
全国漁業信用基金協会 三重支所	1人	1人	2人
合計	827人	969人	1,796人



式典行事

概要

令和7年11月9日(日)、志摩市阿児アリーナ(志摩市)において、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、全国各地から招待者など790名が参加し、式典行事を執り行いました。

進行表

時間	プログラム・次第	内容・出演者等
8:20	開場	
プロローグ～ご案内・奉迎準備		
9:20	プロローグ	第1章【美し国の海の豊かさと伝統】 第2章【地域の特徴を活かした水産業】 第3章【豊かな海の未来をともにつくる】 ナビゲーター：瀬古利彦、浅尾美和 志摩市立東海中学校 郷土芸能クラブ、安乗人形芝居保存会 四日市諏訪太鼓保存会
	登壇者／式典補助員等紹介	登壇者 式典補助員：県立志摩高等学校 演奏：私立皇學館高等学校 吹奏楽部
式典行事		
10:06	天皇皇后両陛下御臨席	
	大会旗入場	演者：私立しまの杜子ども園、私立しまの杜保育園 旗手団：県立水産高等学校 受取：三重県知事
	開会のことば	三重県漁業協同組合連合会代表理事会長
	国歌斉唱	
	主催者あいさつ	大会会長、三重県知事
	歓迎のことば	志摩市長
	おことば	
	功績団体等表彰	功績団体表彰受賞者代表、作品コンクール受賞者代表
	最優秀作文の発表	大会会長賞受賞者代表
	稚魚等のお手渡し	お受け者：三鬼大、谷口博俊、木下和行、西秀次、山下凜 介添え：県立志摩高等学校
	海づくりメッセージ	「豊かな海」の継承を目指す挑戦について決意を発信 清水清大、山下吉継・梓、平賀大蔵、橋本信満
	大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長
	大会旗引継ぎ／次期開催府あいさつ	三重県知事、大阪府知事
	閉会のことば	三重県議会議長
	天皇皇后両陛下御退席	
受賞者紹介映像～エピローグ		
11:20	受賞者紹介	受賞者紹介映像
	功績団体表彰・作品コンクール表彰	三重県副知事、受賞者
	エピローグ	ナビゲーター：瀬古利彦、浅尾美和 伊勢市立五十鈴中学校 合唱部、私立高田高等学校 演劇部 私立三重高等学校 ダンス部
12:00	終了	

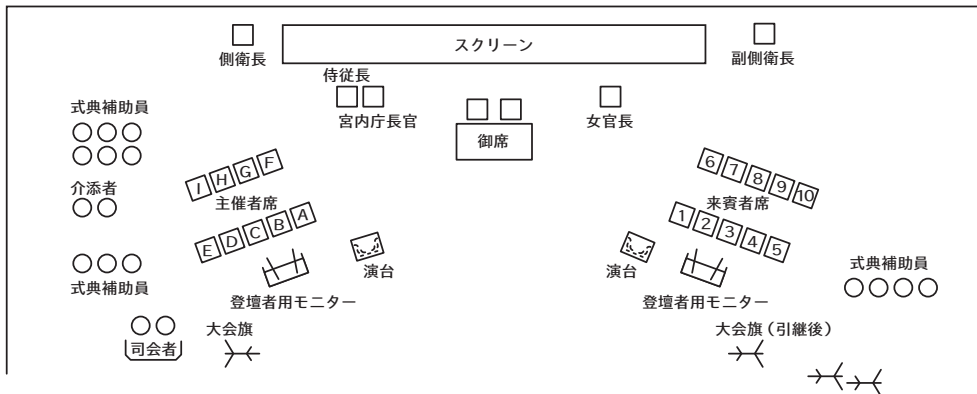


式典行事会場

志摩市阿児アリーナ



ステージ座席表



■主催者席

- A 大会会長
- B 豊かな海づくり大会推進委員会会長
(全国漁業協同組合連合会代表理事会長)
- C 三重県知事
- D 志摩市長
- E 南伊勢町長
- F 三重県議会議長
- G 志摩市議会議長
- H 南伊勢町議会議長
- I 三重県漁業協同組合連合会代表理事会長

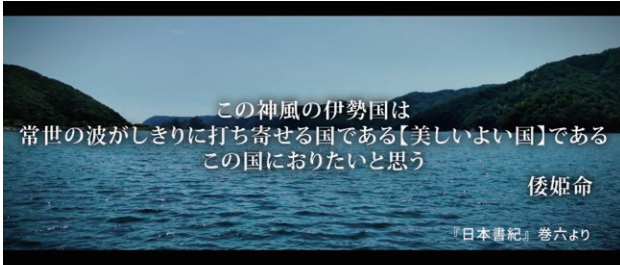
■来賓者席

- 1 農林水産大臣
- 2 環境大臣
- 3 水産庁長官
- 4 大阪府知事
- 5 最優秀作文発表者
- 6 大会会長賞受賞者代表 (功績団体)
- 7 農林水産大臣賞受賞者代表 (功績団体)
- 8 環境大臣賞受賞者代表 (功績団体)
- 9 水産庁長官賞受賞者代表 (功績団体)
- 10 三重県知事賞受賞者代表 (作品コンクール)



プロローグ

第1章 美し国の海の豊かさと伝統



いにしへの時代から「美(うま)し国」と呼ばれる三重の地。その美しさや豊かな恵みは日本最古の正史「日本書紀」にも記され、伊勢まいりや熊野詣に訪れた全国の旅人を魅了してきました。その豊かな海を次の世代に残すため、「豊魚祭」や「全国豊かな海づくり大会」の実現のために奔走した石原円吉氏、宮原九一氏が三重県出身であることを紹介しました。



大漁を願う人々の海との深い関りが垣間見える文化が今も息づく三重の地。1592年に九鬼嘉隆が安乗神社に戦功のお礼参りに訪れた際、村びとに人形芝居を許したのが始まりとされる地元志摩市に伝わる「安乗(あのり)人形芝居」は、昭和55年国の重要無形民俗文化財に指定されました。航海の安全と大漁を祈願する「戎舞」を志摩市立東海中学校郷土芸能クラブと安乗人形芝居保存会の皆さんに演じていただきました。



第2章 地域の特徴を活かした水産業



ナビゲーターは、ともに三重県出身の瀬古利彦さんと浅尾美和さん。

第2章では、南北千キロ以上におよぶ、変化に富んだ海の自然環境に応じて取り組まれるイセエビの資源管理や養殖魚のブランド化などを紹介しました。そこには、限られた資源を守り、育て、ノウハウを次世代につなげていく持続可能な漁業への挑戦がありました。



三重県は全国有数のイセエビの漁場です。志摩市和具地区では漁業者らが協力して漁を行い、漁獲物や収益を公平に分配する「プール制度」を取り入れ全国のさきがけとなりました。



熊野灘で養殖される「伊勢まだい」。天然まだいに近づけられる様に餌にこだわり、柑橘、伊勢茶、海藻類を用いるなど旨味を重視して育てられます。

次の世代に受け渡してできるよう精進して生産していきたいとの生産者の決意が語られました。



熊野灘では、古くからブリ養殖が盛んに行われてきましたが、エサ代や設備費など、莫大なコスト負担や後継者不足などの課題を解決するため、県漁連と地域の生産者が協力して会社を設立し、こだわりの「伊勢ぶり」が生産されています。



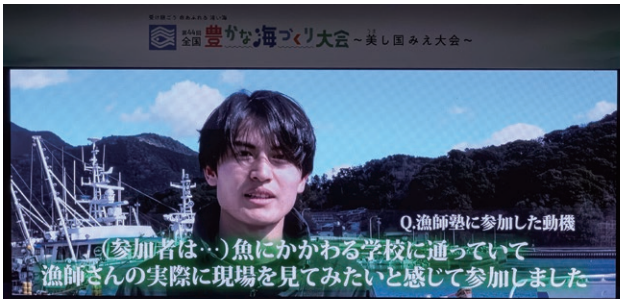
国内北限で養殖される「伊勢まぐろ」はその肉質の良さと脂ののりが特長です。

近年ではICT技術を活用した管理体制を整え、自然環境の変化に対応しています。

三重の海では、資源を守るとともに、安定した養殖管理で水産物を育てています。美味しさの源には、漁業者の工夫と情熱があり、それが地域のブランドを支える力になっています。



第3章 豊かな海の未来をともにつくる



Q.漁師塾に参加した動機
「(参加者は…)魚にかかわる学校に通っていて、漁師さんの実際に現場を見てみたいと感じて参加しました」

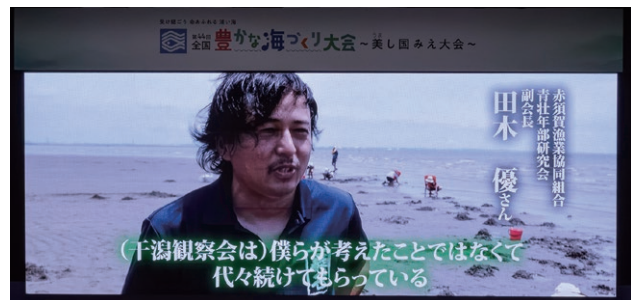


Q.漁業との出会いのきっかけ
「ホームページを探していたら尾鷲市漁業体験教室を発見して体験漁業をしたのが漁業との出会い」

尾鷲市の漁業体験教室をきっかけに、実際に漁師としての道を歩み始めた若者がいます。「漁師の楽しさだったり、県外から来てがんばってるよというのを見ていただけるように、やってみたらやれるんじゃないかという動画を発信しています。」



Q.漁業との出会いのきっかけ
「子どものころから魚が好きで、海も好きで、大学は海洋学部に入学」



Q.干潟観察会は僕らが考えたことではなくて代々続けてもらっている

桑名市の赤須賀漁協では毎年、「山・川・海」のつながりを学ぶ機会として、岐阜県の子どもたちを招き、地元の子どもたちと干潟観察会を開催しています。赤須賀の漁師と子どもたちが岐阜県の山で植樹活動にも取り組み、山・川・海のつながりを体感しています。



四日市諏訪太鼓

大会テーマの「受け継ごう 命あふれる 清い海」。そのゆるぎない志を勇壮な和太鼓演奏で表現したのは、四日市諏訪太鼓保存会の演奏による、大漁を祈願した「鈴鹿来神」でした。昭和35年、長野県御諏訪太鼓から教えを受けて、保存会が結成されたことが始まりの四日市諏訪太鼓。以来、大四日市まつりなど、地元の祭りの花形として、市民に親しまれています。



天皇皇后両陛下御臨席

式典音楽隊の私立皇學館高等学校吹奏楽部による演奏がはじまり、天皇皇后両陛下が式典会場に御入場されました。





大会旗入場

私立しまの杜こども園・しまの杜保育園の園児による大会旗を迎えるダンスにあわせて、県立水産高等学校の旗手団が入場し、旗手団長から三重県知事へ大会旗が手渡されました。



式典音楽隊：私立皇學館高等学校 吹奏楽部



開会のことば

濱口慶太三重県漁業協同組合連合会代表理事会長の
「開会のことば」で式典が始まりました。



三重県漁業協同組合連合会代表理事会長
濱口 慶太

主催者あいさつ

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第44回全国豊かな海づくり大会が開催されるに当たり、主催者として一言御挨拶申し上げます。

古くから「美し国」と呼ばれる三重県は、温暖な気候により、山の幸はもとより、海の幸が豊富にあり、多くの人々を魅了してきました。例えば伊勢神宮にお供えされるアワビや、桑名のハマグリ、伊勢志摩・鳥羽地域のイセエビ、それに熊野灘で育った「伊勢まだい」など、全国的に著名な水産物の宝庫となっています。海洋や河川と豊かな関係を育んできたここ三重県において、昭和59年以来、41年ぶりに、「受け継ごう 命あふれる 清い海」をテーマに今大会が開催されますことを、嬉しく思います。



全国豊かな海づくり大会会長
衆議院議長
額賀 福志郎

気候変動等による海洋環境の変化や水産資源の減少など、水産業や漁村を取り巻く状況は厳しさを増しております。三重県では特に、黒潮の流れが南に大きく蛇行したことにより、海水温が上昇し、漁獲量が大きく減少しています。養殖牡蠣は、多い時の2割程度しか出荷できなかった業者もあると伺いました。観測史上過去最長の7年9か月続いたこの黒潮大蛇行は、今年の春にようやく終息したとされ、北に避難していた魚が戻る可能性もあると聞いております。しかし、今後も起こりうる気候変動対策のため、鳥羽市水産研究所では、海藻が少なくなり生態系が変化する、いわゆる「磯焼け」問題の解決に早くから取り組んでおり、大型の海藻、サガラメの種苗を海底に設置する方法を工夫して、地元の漁協と一緒に海藻の再生活動を行うとともに、地域の小中学生への海洋教育も行っているとのこと。このような取組は、水産業の振興や自然環境の保全にとって、大変意義深いものであると思います。

本日、栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げます。また、お集まりの皆様には、豊かな海や河川を次世代へと引き継ぎ、水産業を未来に希望を持って繋いでいくことを目指して、今後とも御尽力を賜りますよう切にお願いいたします。結びに、大会開催のため力を尽くしてこられた関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶いたします。



主催者あいさつ

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」を開催できますことは、私たち三重県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

御来賓をはじめ、全国から御参加いただきました皆様を歓迎いたしますとともに、本日栄えある表彰を受けられる皆様に心からお祝い申し上げます。

本県は、南北約170km、海岸線は1,083kmに及び、大小の河川が注ぎ遠浅の砂浜が広がる伊勢湾、リアス海岸による天然礁など好漁場に恵まれた鳥羽・志摩、黒潮の影響を強く受ける熊野灘など変化に富んでおり、カツオやイワシなど様々な漁船漁業が営まれるとともに、伝統的な海女漁業、真珠や魚類、ノリ養殖など地域の特長を活かした多様な水産業が営まれています。

本県では、昭和59年の第4回大会の開催を契機に、マダイやアワビ等の種苗放流、ハマグリやイセエビ、トラフグ等の資源管理や、藻場・干潟造成などを推進し、漁業関係者が一丸となり豊かな海づくりに取り組んできました。

本大会の開催趣旨である水産資源の保護・管理に向けた取組は、SDGsの理念の一つにも掲げられており、私たち共通の課題であります。

一方で、近年は、本県においても水産資源の減少、栄養塩類の不足や高水温に伴い、漁場生産力が低下しています。

こうした中、私たちは大会テーマを公募の中から、「受け継ごう 命あふれる 清い海」としました。これは、開催地である志摩市の中学生が考えてくれたものです。

今回の大会開催を契機に、漁業関係者をはじめ、県民の皆様と心をつなげて、豊かな海の恵みを守り、育て、未来へ繋げていく歩みを、世代を超えて進めてまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。



三重県知事
一見 勝之

歓迎のこたば

本日、ここに天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、「第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」が志摩市で開催されますことを、誠に光栄に存じますとともに、心から感謝申し上げます。

また、本大会に御参加いただきました皆様、ようこそ志摩市へおこしくございました。市民を代表して、歓迎を申し上げます。

さて、ここ志摩市は、市全域が伊勢志摩国立公園に指定され、英虞湾、的矢湾に代表されるリアス海岸が特徴的です。湾内をはじめ、大小の島々が点在する自然豊かな地域であり、その景観は「日本の原風景」として、伊勢志摩サミットの開催地に選ばれました。また、古くから豊かな海の幸を献上する「御食つ国」として発展するとともに、真珠養殖産業発祥の地とされるなど、多種多様な水産資源の宝庫となっています。

私たちは、これまで海から多くの恵みを楽しんできました。この豊かな海を守るためにあらゆる努力を続け、次世代へと引き継いでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の益々の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を祈念いたしまして、歓迎の言葉といたします。



志摩市長
橋爪 政吉



天皇陛下のおことば



第44回全国豊かな海づくり大会が、昭和59年の第4回大会以来40年余りの時を経て再びここ三重県で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれます。この豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を適切に保護・管理し、次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命です。

今大会の開催地三重県は、穏やかな遠浅の砂浜が広がる伊勢湾、リアス海岸の志摩半島、黒潮の影響を強く受ける熊野灘、さらには宮川を始めとする大小の河川など、豊かな漁場に恵まれています。そのような中で、漁船漁業のほか、伝統的な海女漁業や真珠養殖業など、古くから地域の特性をいかして多種多様な水産業が営まれてきました。私が幼少期に三重県を訪れた際に見た海女の作業の様子や、真珠の加工工程、そして緑に囲まれた青い海を船が行き交う風景は、自然豊かな海で営まれる漁業や、海と共に暮らす人々の日常を感じさせるものでした。

現在、三重県においては、豊かな海を次の世代に引き継いでいくことができるよう、漁業者と共に進めるイセエビやハマグリなどの資源管理、高水温に対応した真珠や魚類などの養殖技術の研究や、新たな栽培漁業対象種の技術開発に取り組んでいると聞いています。また、伊勢湾の豊かさを取り戻すための栄養塩類不足への対応や、藻場・干潟の造成など、海の環境を保全する取組も進められていると聞きます。

近年、気候変動の影響など、多くの課題に直面している漁業関係者の皆さんには御苦労も多いことと思いますが、本日は表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに取り組んでいる皆さんの活動が、今後とも多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを希望します。

「受け継ごう 命あふれる 清い海」をテーマに行われるこの大会を契機として、海や漁業への人々の理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪がここ三重県から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。



表彰



◎ 功績団体表彰受賞者代表

- 大会会長賞 : 鈴鹿市漁業協同組合（三重県）【資源管理型漁業部門】
- 農林水産大臣賞 : 熊本県立天草高等学校科学部（熊本県）【漁場・環境保全部門】
- 環境大臣賞 : 泉佐野漁業協同組合（大阪府）【資源管理型漁業部門】
- 水産庁長官賞 : 鹿児島県立鹿児島水産高等学校（鹿児島県）【栽培漁業部門】

◎ 作品コンクール受賞者代表

- 三重県知事賞 : 志摩市立神明小学校6年 東山 利香

最優秀作文の発表

「海苔で伝える海の危機」（全文はP70に掲載）



鳥羽市立笠志中学校3年

川原 瑠心



稚魚等のお手渡し



天皇皇后両陛下が稚魚等をお受け者にお手渡しされました。



第1回お手渡し

天皇陛下がマハタを尾鷲市海面養殖振興協議会の三鬼大さんに、皇后陛下がアコヤガイを三重県真珠養殖連絡協議会の谷口博俊さんにお手渡しされました。



第2回お手渡し

天皇陛下がクロノリ・アオノリを三重県黒のり養殖研究会の木下和行さん、松阪漁業協同組合の西秀次さんに、皇后陛下がアマゴを県立水産高等学校の山下凜さんにお手渡しされました。





お手渡し魚等

マハタ



提供: 三重大学魚類標本室

「幻の高級魚」とも呼ばれ、三重県南部地域で養殖が行われています。種苗の生産は全国シェアの8割(令和5年)を占めており、養殖生産量では日本一となります。

アコヤガイ

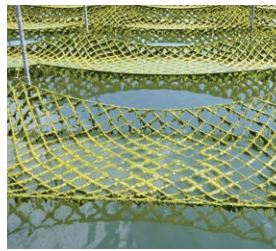


真珠を生み出す貝として、英虞湾を中心に養殖されています。伊勢志摩地域では、真珠は、養殖から加工・販売に至る裾野の広い産業を支える存在となっています。

クロノリ・アオノリ



クロノリは、伊勢湾各地において養殖が行われており、伊勢湾を代表する漁業の一つとなっています。



アオノリは、県内各地の沿岸域で養殖が行われ、その生産量は全国一を誇っています。

アマゴ



提供: 三重大学魚類標本室

県内河川の上流部に広く分布し、「溪流の女王」とも呼ばれ、県内の多くの河川で稚魚の放流が行われています。毎年水産高校が内水面の漁業協同組合と協力し、放流を行っています。

お手渡し容器

「マハタ」と「アコヤガイ」をお受けした容器は、海女の「いそめがね」をイメージし、尾鷲わっぱで形をつくり、本体と蓋の装飾に伊勢型紙と松阪木綿を用いて作成しました。「クロノリ・アオノリ」と「アマゴ」をお受けした容器は、漁具の「ピン玉」をイメージし、伊賀くみひもでも包裹、取っ手には伊勢の根付、蓋には四日市萬古焼を用いて作成しました。



マハタ



アコヤガイ



クロノリ・アオノリ



アマゴ



海づくりメッセージ

県内の漁業者等が登壇し、豊かな海を次世代へ引き継いでいく決意を力強く宣言しました。



三重外湾漁業協同組合
清水 清大

私は祖父が築き、父が発展させた、水産会社の三代目です。54年前の設立以来、まき網、定置網、まぐろ養殖と、経営の多角化を進めてきました。

企業の少ない漁村において、今では120人の雇用を生み出すまでに成長し、漁業者の生活の安定だけでなく、漁業を志す若者の就業の場となり、地域の活性化にもつながっています。

一方で、黒潮の大蛇行による漁場の変化、海水温の上昇による藻場の減少など、将来に対する不安は絶えません。

そのような中でも、小さな魚をとりすぎないように、網の目を以前より大きくするなど、仲間とともに資源管理に取り組んでいます。

これからも、豊かな海の実現に向けて、資源を守り育てる漁業を推進するとともに、地域を盛り上げていくため、仲間と歩みを進めます。



鳥羽磯部漁業協同組合
山下 吉継・梓

山下吉継：私は鳥羽市の答志島で、夫婦・両親・息子と3世代の家族で力を合わせ、黒のり養殖と小型の定置網漁を営んでいます。

近年、自然環境の変化により収穫量が安定しない中、経費の削減と長時間労働の改善の為、地域が一丸となり、三重県で初めて、黒のりの委託加工生産を始めました。組合と協力し、漁師が摘み取った海苔を、安価な使用料のみで加工できるようになり、持続可能な黒のり養殖業の体制が構築されました。

山下梓：委託加工生産を始めてからは、家族で食卓を囲み、学校行事やスポーツの応援にも行けるようになり、家族の笑顔が増えました。また、黒のりの

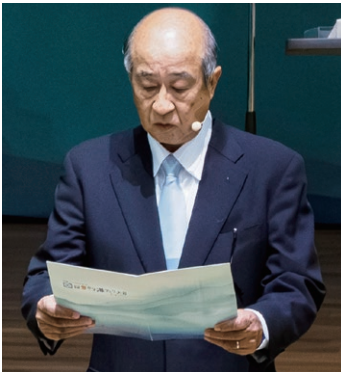
漁期以外は小型の定置網漁を営み、収入の安定化を図っています。

海の上も私たちにとっては家庭なのです。船には、父も私も息子も乗り込み、季節ごとの旬の魚を家族全員で獲って海のためぐみに感謝する充実した日々です。

山下吉継：これからも新たな取組を試みるなど、これまでの経験を生かして、新しい挑戦を続け、美味しい三重の魚を、皆様の食卓に届けたいと思います。



海づくりメッセージ



鳥羽市立海の博物館館長
平賀 大蔵

伊勢湾や鳥羽の海の環境は過去30年で大きく変化しました。干潟やアマモ場の面積は減少し、そこにすむ生きものの種類や量も減少しています。

そのような中、アマモ場を再生させるため、採取した種を海にまいたり、種から苗を育てて移植したりする活動を十数年間続けています。また、未来の海を守る担い手である子どもたち向けのアマモ場の観察会も行っています。これらの活動は、地元の漁業者とも連携し、地域参加型活動として取り組んでいます。こうした活動を通じて、子どもたちが海の大切さを感じ、さらに次の世代に伝えてくれると信じております。

そして、私たち大人は、今まで以上に、海の環境の変化を意識しつつ、地域社会全体で海の環境の保全に取り組むべきであると、自覚をしなければなりません。海の環境の保全にしっかりと取り組み、その活動を通じて、子どもや孫世代へ、豊かな三重の海を守り、引き継ぐ為に皆様とともに心を一つにしたいと願います。



白塚漁業協同組合
代表理事組合長
橋本 信満

私たちは津市の白塚で、バッチ網により、主にイワシ類を水揚げしています。同じ伊勢湾で操業する県外の漁師とも休漁日をあわせるなど、厳しい資源管理を行っています。

現在、白塚のイワシは、養殖の餌として使われることが多いのですが、食べれば本当においしいので、もっと多くの人に知ってもらい、食べてもらいたいと考えています。

このため、20年以上前から、地元の水産加工の方と協力して「白塚おさかなまつり」を開き、地元水産物のPRを行ってきました。また、室町時代に、津市から京都まで、イワシを運ぶ街道があったという歴史をもとに、地域一体となってブランド化にも取り組んでいます。

今後も安定した水揚げができるよう資源管理に努めつつ、水産物の高付加価値化、魚食の普及に取り組む、三重県の漁業の発展に尽力いたします。





大会決議

豊かな海に囲まれた日本は、津々浦々で多種多様な漁撈や漁村文化が生まれ、固有の風土と歴史に根差した彩りある魚食文化を培ってきた。

ここ三重県は、北は伊勢湾から鳥羽・志摩、そして南は熊野灘まで約一千キロメートルにも及ぶ変化に富んだ海域を有し、海域の環境や特性を活かして伝統的な海女漁業やマダイ養殖業をはじめとする様々な漁業・養殖業が営まれ、四季折々の海の幸をもたらすとともに、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

私たち水産関係者は、近年の急激な海洋環境の変化に柔軟に対応しながら、豊かな海を守り育て、国民への安心・安全な水産食料の供給を果たしていく責務がある。

本年は、ここ三重県において、「受け継ごう 命あふれる 清い海」を合言葉に、掛け替えのない財産である豊饒の海を次世代に引き継いでいく決意を内外に示すとともに、水産業・漁村の持続的な発展に向けた取組をより一層力強く進めていくことを、ここに決議する。



豊かな海づくり大会推進委員会会長
全国漁業協同組合連合会代表理事会長

坂本 雅信

大会旗引継ぎ

一見勝之三重県知事から吉村洋文大阪府知事に大会旗を引き継ぎました。



次期開催府あいさつ

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、「第44回全国豊かな海づくり大会～美しく国みえ大会～」が盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。

三重県は伊勢湾、鳥羽・志摩、熊野灘の豊かな海に恵まれ、伊勢海老や真珠、桑名のはまぐり、海苔など、全国に誇る水産資源を育ててこられました。そして、41年ぶり二度目の開催である本大会では、こうした恵みを守り未来へつなぐ取組みを広く発信され、海の環境保全の重要性を共有する貴重な交流の場として、先人の皆様の努力と経験を礎とし、次世代につなぐ意義深い節目の大会になったことと存じます。この思いをしっかりと受け継ぎ、次回の大阪大会では、大阪湾の魅力とともに、全国の海づくりの輪をさらに広げてまいります。

次回の開催地となる大阪府には、明石海峡と紀淡海峡からの強い潮流と、琵琶湖から淀川を通じて流れ込む豊富な栄養分に恵まれた大阪湾があり、そこで育ち水揚げされた魚介類は、漁場が近く鮮度と品質が高いといった特徴があります。

また、「大阪」を意味する「なにわ」の語源には古来より大阪湾が魚介類の豊富な海であったことから魚がたくさんいるところの「魚」の「庭」と書いて「魚庭（なにわ）」となったという説があります。

初めての開催となります大阪大会では、先日閉幕した大阪・関西万博の理念も継承し「響かせよう 豊かな海のハーモニー」をテーマに大阪湾の恵みを守り、活かす取り組みを行い、経済発展による都市の成長と環境に配慮した豊かな海づくりが両立できる、そのことを全国に発信してまいります。

来年の「魚庭（なにわ）の海おおさか大会」には、ぜひ多くの皆様にお越しをいただき、水都大阪の魅力や、大阪産（もん）をはじめ天下の台所と言われた大阪の「食」を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、天皇皇后両陛下の弥栄を心からお祈り申し上げますとともに、御列席の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。



大阪府知事
吉村 洋文



閉会のことば

服部富男三重県議会議長の「閉会のことば」で式典が終了しました。



三重県議会議長
服部 富男

表彰式

式典終了後、野呂幸利三重県副知事から功績団体表彰受賞者と作品コンクール受賞者へ賞状の授与を行いました。



あいさつ

本日は、県内外からこのように多くの方々に、式典行事に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、ただいま功績団体並びに作品コンクールの各賞を受賞された皆様、誠にありがとうございます。皆様方の今後一層の御活躍を心から願っております。

午後からは、南伊勢町の宿田曾漁港におきまして、海上歓迎・放流行事を開催することにしております。50隻程の歓迎船が並んだ中での漁船による海上歓迎パレードとイセエビとマダイの放流を実施いたします。

また、本日は、県内5か所において、豊かな海づくりに関する啓発と理解を目的とした関連行事が開催されており、志摩市と南伊勢町の会場では、午後からも行事が催されます。

さて、式典行事もあとはエピローグを残すのみとなりました。皆様方におかれましては、引き続きお楽しみいただければと思います。

結びに、本大会の開催にあたりまして、お力添え、御尽力を賜りました関係者の皆様方に心から厚くお礼を申し上げますとともに、本日御列席の皆様方の御多幸を祈念申し上げまして、私からのあいさつといたします。本日は誠にありがとうございました。



三重県副知事
野呂 幸利



エピローグ

伊勢市立五十鈴中学校合唱部の皆さんが美しい歌声を披露しました。



私立高田高等学校演劇部と私立三重高等学校ダンス部がコラボレーションしたパフォーマンスを披露しました。



フィナーレでは、ナビゲーター、式典補助員・介添えを務めた県立志摩高等学校、旗手団を務めた県立水産高等学校、エピローグを務めた伊勢市立五十鈴中学校合唱部・私立高田高等学校演劇部・私立三重高等学校ダンス部、プロローグを務めた志摩市立東海中学校郷土芸能クラブと安乗人形芝居保存会・四日市諏訪太鼓保存会、音楽隊を務めた私立皇學館高等学校吹奏楽部を紹介し、盛大な拍手の中、閉幕しました。

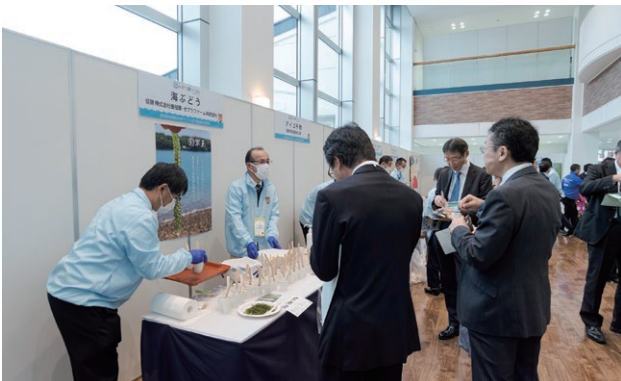




おもてなしコーナー

式典会場において、三重県のお菓子や伊勢茶の配布、三重県の観光や志摩市・南伊勢町を紹介するパネル展示を行い、招待者の皆様をおもてなししました。

また、絵画・習字コンクールの優秀作品や、県立特別支援学校玉城わかば学園の児童の皆さんが制作したアート作品を展示し、招待者の皆様にお楽しみいただきました。





式典行事

出演者紹介

ナビゲーター



瀬古 利彦

三重県桑名市生まれ。箱根駅伝で2年連続区間新を記録。マラソンでは福岡国際3連覇やポストン、ロンドン、シカゴを制するなど、輝かしい実績を残す。現在はDeNAスポーツグループのフェローとして活躍中。



浅尾 美和

三重県鈴鹿市生まれ。高校卒業後、インドアバレーからビーチバレーに転向。「ビーチの妖精」と呼ばれ、国内ツアーでは2度の優勝と7度の準優勝。12年に現役を引退し、現在は2児の母。

司会



三重テレビ放送アナウンサー
中久木 大力



フリーアナウンサー
北村 実穂

作文コンクール最優秀作文発表



川原 瑠心
鳥羽市立荻志中学校 3年



お受け者・海づくりメッセージ者

稚魚等のお受け者

マハタ



三鬼 大
尾鷲市海面養殖振興協議会

アコヤガイ



谷口 博俊
三重県真珠養殖連絡協議会

クロノリ



木下 和行
三重県黒のり養殖研究会

アオノリ



西 秀次
松阪漁業協同組合

アマゴ



山下 凜
三重県立水産高等学校水産資源科
アクアデザインコース

海づくりメッセージ発表者



清水 清大
三重外湾漁業協同組合



山下 吉継・梓
鳥羽磯部漁業協同組合



平賀 大蔵
鳥羽市立海の博物館



橋本 信満
白塚漁業協同組合



式典行事



志摩市立東海中学校郷土芸能クラブ 安乘人形芝居保存会 プロローグ



四日市諏訪太鼓保存会 プロローグ



県立志摩高等学校 式典補助員、介添え



私立皇學館高等学校 吹奏楽部 式典音楽隊



私立しまの杜こども園 私立しまの杜保育園 大会旗入場



県立水産高等学校 大会旗入場



私立三重高等学校 ダンス部 エピローグ



伊勢市立五十鈴中学校 合唱部 エピローグ



私立高田高等学校 演劇部 エピローグ



概要

令和7年11月9日(日)、式典行事に引き続き、宿田曾漁港（南伊勢町）において、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、全国各地から334名の招待者をお迎えし、海上歓迎・放流行事を執り行いました。宿田曾漁港内を歓迎船が彩る中、漁船による漁法紹介を実施した後、イセエビの稚エビとマダイの稚魚を放流しました。

熊野灘に面したリアス海岸の海・山・空が一体となった豊かな自然を感じていただける会場で、御放流所には三重県産のヒノキを使用しました。



進行表

時間	プログラム・次第	内容・出演者等	
14:00	招待者会場移動・整列	昼食会場から移動・整列	
14:31	歓迎演奏	演奏：県立神戸高等学校 吹奏楽部	
	進行概要説明	司会による奉迎の案内等	
14:48	天皇皇后両陛下御着		
14:50	海上歓迎行事	漁船披露	漁船47隻
		漁法紹介	漁船15隻／漁業調査船1隻／先導船1隻 演奏：なぶら太鼓
15:00	放流行事	第1回御放流 イセエビ稚エビの放流	介添え：県立南伊勢高等学校、南伊勢町立南勢中学校、 南伊勢町立南島中学校
		第2回御放流 マダイ稚魚の放流	放流合図：南伊勢町立南勢小学校、南伊勢町立南島西小学校、 南伊勢町立南島東小学校
15:08	天皇皇后両陛下御発		
15:14	終了		



漁法紹介航路



三重県 Esri, HERE, Garmin, FAO, NOAA, USGS

昼食会場



おもてなし会場





歓迎演奏

県立神戸高等学校吹奏楽部による演奏で、招待者の皆様を歓迎しました。



天皇皇后両陛下下御着



海上歓迎行事

南伊勢町で活躍するなぶら太鼓の勇壮な演奏と華やかに装飾された歓迎船が宿田曾漁港を彩る中、漁船による漁法紹介を天皇皇后両陛下に御覧いただきました。





漁船披露

色鮮やかな大漁旗で華やかに装飾された47隻の地元漁船で構成された歓迎船が、海上で招待者の皆様に盛大に迎えました。各船は大漁旗を掲げ、海上を美しく彩りながら、心からの歓迎の意を伝えました。



漁法紹介

船名	船長	漁業種類等	説明
みやかせ	前田 勇平	巡視艇	漁法紹介の漁船を先導しました。海上保安庁は、「地域の一員として」大切な水産資源、漁業の秩序そして漁業に携わる方々の命を守り、地域の安全、安心な暮らしを支えています。
大正丸 光進丸 小川	大山 彰智 前田 孝雄 小川 弥代	海女漁業	女性が素潜りでアワビやサザエなどを漁獲する伝統漁法です。鳥羽・志摩地域の海女漁は国の重要無形民俗文化財に指定されています。
龍己丸 宝寿丸 第十二まる金丸 岡万丸	稲葉 龍二 東 郁生 山本 栄樹 岡田 佳久	真珠養殖業	アコヤガイという二枚貝に核を挿入し、真珠層を分泌させて真珠を育む漁法です。英虞湾を発祥の地とする本県の重要な産業です。
一弥丸 勝丸 政丸	小川 吉高 大田 浩司 城山 直也	いせえび 刺網漁業	イセエビを海底に仕掛けた帯状の網に絡ませて漁獲する漁法で、本県は全国有数の漁獲量を誇ります。
多平丸	濱口 松久	ふぐ はえ縄漁業	「幹縄」と呼ばれる長いロープに取り付けた多数の釣り糸、釣り針でふぐを釣る漁法です。近県漁業者と連携して資源管理に取り組んでいます。
大征丸	坂口 征規	定置網漁業	沿岸を回遊する魚類の通り道に大きな網を固定し、ブリを始めアジ、イカなど様々な魚介類を漁獲する漁法です。
大山丸	大山 満	沿岸かつお 一本釣り漁業	疑似餌や餌イワシを用いて釣り竿で一尾ずつ丁寧にカツオを釣り上げる漁法です。
第三長栄丸	岸本 和真	魚類養殖業	海面に設置した生簀網で魚類を養殖する漁法です。熊野灘ではリアス海岸を利用し、マダイやクロマグロ養殖が盛んに行われています。
第五十一 清洋丸	山本 純也	まき網漁業	魚の群れを探す探索船、網船、運搬船で船団を構成し、アジ、サバ、イワシなどの群れを網で巻き取って漁獲する漁法です。
あさま	岩田 定和	漁業調査船	最新鋭の観測機器を搭載した高速タイプの調査船で、機動性をいかし、伊勢湾から熊野灘まで広く三重県周辺海域の調査を実施しています。



海上歓迎・放流行事

1 海女漁業 大正丸・光進丸・小川



2 真珠養殖業 龍己丸・宝寿丸・第十二まる金丸・岡万丸



3 いせえび刺網漁業 一弥丸・勝丸・政丸



4 ふくはえ縄漁業 多平丸



5 定置網漁業 大征丸



6 沿岸かつお一本釣り漁業 大山丸



7 魚類養殖業 第三長栄丸



8 まき網漁業 第五十一清洋丸



9 漁業調査船 あさま



先導船 みやかぜ





放流行事

南伊勢町の宿田曾漁港において放流行事を行いました。放流行事では南伊勢町立南勢小学校・南島西小学校・南島東小学校の児童3名の放流合図で、天皇皇后両陛下がイセエビの稚エビを御放流され、続いてマダイの稚魚を御放流されました。介添えは、県立南伊勢高等学校、南伊勢町立南勢中学校・南島中学校の生徒が行いました。天皇皇后両陛下の御放流に続いて、招待者ら334名がイセエビの稚エビとマダイの稚魚を放流しました。



イセエビ



鳥羽市以南の岩礁域で生息し、主に刺網漁で漁獲されます。漁獲量は全国第2位(令和4年)を誇るなど、県を代表する水産物で、県や市の魚に指定されています。

マダイ



提供: 三重大学魚類標本室

伊勢湾から熊野灘にかけて沿岸域に広く分布し、三重県では主に定置網や一本釣り、小型底びき網、まき網、バッチ網・船びき網などで、年間約200トンが漁獲されています。



放流行事

放流合図

『海を大切にすること、それは海の資源を守ること、私たちは豊かな海を未来へつなげます。
これから、みんなでイセエビの稚エビを放流しましょう。』





海上歓迎・放流行事

吹奏楽演奏



県立神戸高等学校

和太鼓演奏



なぶら太鼓

御放流介添え



県立南伊勢高等学校

御放流介添え



南伊勢町立南勢中学校



南伊勢町立南島中学校

放流合図



南伊勢町立 南勢小学校・南島西小学校・南島東小学校

司会



三重テレビ放送アナウンサー
奥村 莉子



三重エフエム放送アナウンサー
代田 和也



海上歓迎・放流行事

1 海女漁業 大正丸・光進丸・小川



2 真珠養殖業 龍己丸・宝寿丸・第十二まる金丸・岡万丸



3 いせえび刺網漁業 一弥丸・勝丸・政丸



4 ふぐはえ縄漁業 多平丸



5 定置網漁業 大征丸



6 沿岸かつお一本釣り漁業 大山丸



7 魚類養殖業 第三長栄丸



8 まき網漁業 第五十一清洋丸



9 漁業調査船 あさま





お手渡し魚等の記念放流

マハタ



令和7年12月8日 賀田湾（尾鷲市）で尾鷲市海面養殖振興協議会会員の生簀に放養されました。

アマゴ



令和7年12月20日 宮川水系一之瀬川（度会町）で県立水産高等学校の生徒らが参加して放流されました。

アコヤガイ



県水産研究所において、種苗生産に活用されます。

クロノリ・アオノリ



県水産研究所において、種苗生産に活用されます。



作品コンクール（絵画・習字）優秀作品御覧

概 要

大会行事の一環として実施した作品コンクール（絵画・習字）の優秀作品（三重県知事賞受賞作品）を天皇皇后両陛下に御覧いただき、受賞者の児童・生徒一人ひとりにお声をかけていただきました。

- 実施日 令和7年11月8日（土）
- 場 所 志摩観光ホテル ザ クラシック



進行表

時間	進行	参加者等
18:13	天皇皇后両陛下御着	御先導：三重県知事
	絵画・習字優秀作品御覧	御説明：三重県教育委員会教育長 受賞者：三重県知事賞（絵画部門・習字部門） 〈絵画部門〉 小学校低学年（1年生～3年生）の部 小学校高学年（4年生～6年生）の部 中学校の部 計3名 〈習字部門〉 小学校低学年（1年生～3年生）の部 小学校高学年（4年生～6年生）の部 中学校の部 計3名 合計6名
18:33	天皇皇后両陛下御発	御先導：三重県知事

受賞者・受賞作品

「絵画」三重県知事賞

小学校低学年の部	岡田 絵舞（桑名市立多度東小学校3年）	「ファンタスティック海」
小学校高学年の部	東山 利香（志摩市立神明小学校6年）	「志摩市の豊かな海」
中学校の部	前田 泰志（紀宝町立矢渕中学校2年）	「青い海と伝統の技」

「習字」三重県知事賞

小学校低学年の部	今西 美桜（鈴鹿市立旭が丘小学校2年）	「うみ」
小学校高学年の部	森本 季依奈（四日市市立常磐西小学校6年）	「豊かな海」
中学校の部	東海 こあ（志摩市立文岡中学校3年）	「豊漁の海」





漁業関係者との御懇談

概要

天皇皇后両陛下と稚魚等お受け者・県内漁業関係者・功績団体表彰受賞者が和やかに御懇談しました。

- **実施日** 令和7年11月8日(土)
- **場所** 志摩観光ホテル ザ クラシック

進行表

時間	進行	参加者等
18:35	天皇皇后両陛下御着	御先導：三重県知事
	漁業関係者等との御懇談	御説明：三重県漁業協同組合連合会代表理事長 御懇談：漁業関係者（海づくりメッセージ発表者）5名 稚魚等お受け者 1名 功績団体表彰受賞者 12名
18:55	天皇皇后両陛下御発	御先導：三重県知事

御懇談者

- **稚魚等お受け者** 山下 凜（三重県立水産高等学校）
- **県内漁業関係者（海づくりメッセージ発表者）**
山下 吉継・山下 梓（鳥羽磯部漁業協同組合）、清水 清大（三重外湾漁業協同組合）
平賀 大蔵（鳥羽市立海の博物館）、橋本 信満（白塚漁業協同組合）
- **功績団体表彰受賞者**
 - 栽培漁業部門 岡 修（魚庭の海づくり実行委員会）（大阪府）
浅井 利一（伊勢湾口地区ふぐ延縄協議会）（三重県）
市川 秀次（公益社団法人山口県光・熊毛地区栽培漁業協会）
谷山 竜之真（鹿児島県立鹿児島水産高等学校）
 - 資源管理型漁業部門 矢田 和夫（鈴鹿市漁業協同組合）（三重県）
金野 一男（銚子市漁業協同組合外川支所漁業者協議会）（千葉県）
三好 正広（泉佐野漁業協同組合）（大阪府）
福家 紀彦（鳥取県漁業協同組合境港支所潜水グループ）
 - 漁場・環境保全部門 小浦 嘉門（22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会）（三重県）
田中 彩絵（熊本県立天草高等学校 科学部）
上甲 誠（～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」）（大阪府）
竹内 聖一（特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団）（千葉県）





関連行事

豊かな海づくりフェスタ2025in志摩市ともやま公園

- 日時 令和7年11月9日（日）10:00～15:40
- 場所 志摩市ともやま公園 志摩市大王町波切
- 主催 第44回全国豊かな海づくり大会市民会議
- 内容
 - ・ 海業に関する展示（水産庁）、海藻万華鏡作成体験（海藻おしば協会）、漁網リサイクル展示（公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構）、次期開催府PR展示（大阪府）、真珠フォトフレーム作り（立神真珠養殖漁業協同組合）等
 - ・ さかなクントークショー、よしお兄さんの海大好きステージ等
 - ・ ふわふわ海のプレイランド等遊具コーナー
 - ・ 景品付周遊ラリーイベント
 - ・ 飲食、物販コーナー
 - ・ マダイの刺身、ニベのフライ、海藻味噌汁のふるまい

■ 来場者 3,500人

第44回全国豊かな海づくり大会一周年記念大会一周年行事
豊かな海づくりフェスタ2025
 in 志摩市ともやま公園
 受け継ごう 命あふれる 清い海
 2025年11月9日(日)
 10:00～15:40
 ※9:20開場

ステージイベント

- 船越三嶋山本節（ナゴヤフット）
- 「さかなクン」トークショー【2部制】
- 「よしお兄さん」トークと親子体験
- 三重高校タス部(フィッシング)体験

主なスケジュール

- 10:00～ 開場
- 10:00～ 海と遊びコーナー
- 10:00～ さかなクントークショー
- 10:00～ 漁網リサイクル展示
- 10:00～ 海藻万華鏡作成体験
- 10:00～ 真珠フォトフレーム作り
- 10:00～ ショッピング会場
- 10:00～ 伊勢豆腐のふるまいコーナー
- 10:00～ マダイの刺身
- 10:00～ ニベのフライ
- 10:00～ 海藻味噌汁

海と遊びコーナー

- ふわふわ海のプレイランド
- マリン遊具
- ライオンゲーム
- ビッグフィッシング

海に関する展示・体験コーナー

- 海業に関する展示
- 漁網リサイクルに関する展示
- 海藻万華鏡作成体験
- 真珠フォトフレーム作り
- シー・オブ・シー体験
- シー・オブ・シー体験

伊勢豆腐のふるまいコーナー

- マダイの刺身
- ニベのフライ
- 海藻味噌汁

特別配信コーナー

- 本大会公式典行事と海上歓迎・旗行奉をLIVE中継

飲食・物販コーナー

- 飲食ブース、キッチンカー
- 物販ブース

周遊ラリーイベント

- 志摩の豊かな海を体験しながら学べるラリーイベント
- (景品付・先着500名様)

主催：第44回全国豊かな海づくり大会市民会議【問合せ】tel 0599-43-5930
 後援：志摩市、志摩市教育委員会 ●協賛：第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会





関連行事

ゆた海フェスタin南伊勢町奈屋浦漁港

- 日時 令和7年11月9日（日） 10:20～15:30
- 場所 奈屋浦漁港 度会郡南伊勢町奈屋浦
- 主催 南伊勢町、第44回全国豊かな海づくり大会南伊勢町美し国みえ大会実行委員会
- 内容
 - ・ココリコ田中直樹さんと鳥羽水族館館長若井嘉人さんとのスペシャル対談、Takuya Nagabuchiライブ、翔大ミニコンサート等
 - ・マダイ稚魚の放流
 - ・さかなのつかみ取り、おさかなぬりえ体験
 - ・飲食、物販コーナー
 - ・マダイの刺身のふるまい
- 来場者 2,000人





第23回赤須賀漁業まつり

- 日時 令和7年11月9日（日）9:00～11:30
- 場所 桑名港 桑名市大字赤須賀
- 主催 赤須賀漁業協同組合
- 内容
 - ・ 漁船乗船体験及びシジミ漁見学
 - ・ ハマグリ稚貝放流
 - ・ 木曾川下流防災学習パネル展示
 - ・ 赤須賀産ハマグリ、シジミ即売
 - ・ 焼きハマグリ、海産物水産関係品即売
 - ・ シジミ汁ふるまい
- 来場者 1,000人





第20回白塚おさかな祭り

- 日 時 令和7年11月9日（日）8:30～12:30
- 場 所 白塚漁港 津市白塚町
- 主 催 白塚漁業協同組合
- 内 容
 - ・おさかなぬりえ、缶バッジ作り体験
 - ・クルマエビ稚エビ放流
 - ・伊勢湾産イワシ鮮魚等即売
 - ・海産物水産関係品即売
 - ・いわし寿司ふるまい
- 来場者 2,200人

みんな来てねー

第20回

白塚おさかな祭り

日にち/ 11月9日（日）

時間/ 8:30～12:30

場所/ 白塚漁港内

鮮魚ほか海産物がずらり!!

たつくり、ちりめん、いわし丸干しなど各種干物、貝類、市内各地の農産物も用意しています!

元東京大寿司 松田さんのいわし寿司振る舞い

先着400名様に引換券配布

さかばを釣って名前を当て賞物券をゲット!

主催/ 白塚漁業協同組合 後援/ 三重県・津市・県漁連・津市物産振興会
問い合わせ先/ 白塚漁業協同組合 (☎059-232-3027)





関連行事

第12回おわせ魚まつり

- 日時 令和7年11月9日（日）9:00～12:00
- 場所 尾鷲魚市場 尾鷲市港町
- 主催 三重県尾鷲市尾鷲港産地協議会
- 内容
 - ・ 定置網漁業体験、ミニ水族館、タッチプール、魚すくい、おさかなぬりえ体験
 - ・ マグロ目方当てクイズ、マグロの解体ショー
 - ・ マダイ稚魚の放流
 - ・ 飲食、物販コーナー
 - ・ 鮮魚刺身、大敷汁、地魚干物、マグロ刺身のふるまい
- 来場者 4,500人



受け継ごう 命あふれる 清い海



第44回
全国

豊かな海づくり大会

～^{うま}美し国みえ大会～

大会開催のあゆみ



大会開催経過

令和4年度

4月 8日	水産庁から、三重県に2025年(令和7年)の大会の開催県となることについて打診
7月21日	豊かな海づくり大会推進委員会に第44回全国豊かな海づくり大会の開催申請書を提出
9月 5日	豊かな海づくり大会推進委員会から第44回全国豊かな海づくり大会の開催決定通知
9月 7日	知事定例記者会見で開催決定を発表
11月12日・13日	第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～に参加
3月17日	第44回全国豊かな海づくり大会準備委員会設置

令和5年度

4月 1日	農林水産部水産資源管理課に豊かな海づくり大会推進班を設置(3名)
5月25日	第44回全国豊かな海づくり大会第1回準備委員会を開催
7月25日	第44回全国豊かな海づくり大会第2回準備委員会を開催
9月16日・17日	第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会に参加
10月12日	第44回全国豊かな海づくり大会実行委員会設立総会及び第1回総会を開催【大会基本構想、開催地を決定】
10月14日	みなみいせまつり(南伊勢町)で第44回全国豊かな海づくり大会PR(於奈屋浦漁港)
10月17日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会事務局看板掲揚式
10月23日	志摩市が開催する第44回全国豊かな海づくり大会開催決定式典に参加(於志摩市阿児アリーナ)
11月17日	第44回全国豊かな海づくり大会に関する三重県ホームページを開設
12月18日	大会テーマ、大会コスチュームデザインの募集開始(～2月22日)
12月28日	三重県漁業協同組合連合会イベントで大会PR(於三重県営サンアリーナ)
12月30日	三重外湾漁業協同組合イベントで大会PR(於奈屋浦漁港)
1月27日	三重テラスin大阪で大会PR(於ホワイトィうめだ)
2月 1日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第1回幹事会を開催
2月17日	第44回全国豊かな海づくり大会体験イベントの開始(第1回、於イオンモール東員)
3月17日	南伊勢町防災フェスタで大会PR(於宿田首地区)
3月27日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会臨時総会を開催(書面) 【令和6年度事業計画及び収支予算(案)の承認】



大会開催経過

令和6年度

4月 1日	農林水産部に全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームを設置（15名）
4月 6日	錦ぶりまつりで大会PR（於大紀町錦漁港、以降令和6年度にPR・体験等35回実施）
4月16日	令和6年度第44回全国豊かな海づくり大会実施計画等策定業務に係る三重県実行委員会物件調達競争入札等審査会を開催
4月23日	令和6年度第44回全国豊かな海づくり大会宿泊・輸送計画策定等業務に係る三重県実行委員会物件調達競争入札等審査会を開催
6月 6日	大会記念リレー放流の開始（於南伊勢町五ヶ所浦、マダイ、ヒラメ、カサゴ）
6月11日	令和6年度第44回全国豊かな海づくり大会実施計画等策定業務企画提案コンペ審査会を開催
6月15日	第2回大会記念リレー放流（於志摩市阿児町安乗、トラフグ、以降令和6年度にリレー放流を34回実施）
6月19日	令和6年度第44回全国豊かな海づくり大会宿泊・輸送計画策定等業務企画提案コンペ審査会を開催
7月 1日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第2回幹事会を開催（書面）
	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を強化（16名）
7月 4日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第2回総会を開催 【基本計画策定、大会テーマ・コスチュームデザインを決定】
8月 5日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～ウェブサイト構築委託業務企画提案コンペ審査会を開催
10月16日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～開催日正式決定通知【令和7年11月9日】
11月 1日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～フォトコンテスト募集開始（～令和7年1月31日）
11月 4日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～一年前イベント「豊かな海づくりフェスタ」は荒天により中止
11月 9日・10日	第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～に参加 【次回開催県として大会旗を受け取り、関連行事会場で開催PR】
12月 2日	大会公式ホームページを開設
12月 4日	県内29市町に対し、関連行事開催についての意向調査
2月 6日	大会記念弁当試食会
2月17日	豊かな海づくり大会推進委員会令和6年度第2回幹事会に出席 【大会計画（案）、公式ポスター（案）を説明】
3月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を強化（17名）
3月21日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第3回幹事会を開催（書面）
3月22日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第3回総会を開催 【実施計画、令和6年度収支決算見込、令和7年度事業計画及び予算（案）承認】

令和7年度

4月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を強化（21名） 作品コンクール（作文・絵画・習字）募集開始（～6月6日まで、作文高校生の部のみ6月30日まで延長）
5月 9日	第2685回関東・中部・東北自治宝くじ証票に第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～図柄が採用され発行
5月20日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実施本部を設置 三重県行幸啓本部を設置
5月31日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～気運醸成イベント「豊かな海づくりフェスタ」を開催（於宿田曽卸売市場）



大会開催経過

令和7年度

6月12日	全国一斉海浜清掃旗揚げ式&南伊勢町クリーン大作戦（於宿田曾漁港）
6月15日	150日前イベント「志摩の豊かな海づくりフェスタ」（於浜島港）
6月23日	大会記念弁当完成報告会
7月 5日	プランターカバーを作成する高校生を対象として、森を体感するバスツアーin松阪飯南森林組合を実施
7月 8日	大会記念リレー放流を終了（於紀北町、全52回）
8月 2日	100日前イベント「南伊勢町水産センター一般公開」「ビーチクリーン大作戦」（於宿田曾漁港・田曾白浜）
8月12日	宮内庁にお執り成し書を提出
8月19日～21日	宮内庁事前調査
9月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を強化（22名）
9月12日	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実施本部員説明会を開始（～10月24日） 第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第4回幹事会を開催（書面）
9月20日	海上歓迎・放流行事リハーサルを実施
10月 5日	式典行事リハーサルを実施
10月 8日	宮内庁が行幸啓の正式決定を発表 第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第4回総会を開催（書面）
10月 9日	桑名駅、津駅、松阪駅、宇治山田駅、鵜方駅で歓迎装飾を開始（～11月9日）
10月13日	大会PR・体験イベントを終了（於大阪府万博会場、全67回）
10月29日	行幸啓取材説明会（於三重県）
10月30日	宮内庁協議（最終）
10月31日	行幸啓取材説明会（於東京都）
11月 7日	宮内庁先着供奉員による現地調査
11月 8日	前日総合リハーサル（式典行事、海上歓迎・放流行事）を実施 放流魚御覧（於鳥羽水族館）を開催 作品御覧・御懇談（於志摩観光ホテル ザクラシック）を開催
11月 9日	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～を開催 ◆式典行事（於志摩市阿児アリーナ） ◆海上歓迎・放流行事（於宿田曾漁港） 関連行事が志摩市、南伊勢町、桑名市、津市、尾鷲市の県内5ヶ所で開催される
12月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を変更（19名）
12月 8日	お手渡し魚等の記念放流（マハタ：於尾鷲市）
12月15日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を変更（18名）
12月20日	お手渡し魚等の記念放流（アマゴ：於度会町）
1月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を変更（14名）
2月 1日	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームの人員体制を変更（13名）
2月19日	豊かな海づくり大会推進委員会令和7年度第2回幹事会に出席【大会実施結果を報告】
3月	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第5回幹事会を開催（書面）
	第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会第5回総会を開催（書面）



大会テーマ、大会コスチュームデザイン

概要

大会の開催を広くPRし、大会の気運を醸成するため、大会テーマ及びコスチュームデザインを三重県内から募集し、総会で決定しました。

大会テーマ

三重県大会の開催意義や基本理念、基本方針をわかりやすく表現した覚えやすい標語・スローガン

- **募集期間** 令和5年12月18日（月）～令和6年2月22日（木）
- **応募総数** 617件
- **最優秀賞** 小林 碧琶（志摩市立大王中学校2年・応募時）

受け継ごう 命あふれる 清い海

- **作品説明** 様々な生き物がいる清く豊かな海を守っていこうというテーマです。

大会コスチュームデザイン

大会応援マスコット「とこまる」が着る大会専用の衣装で、開催意義や基本理念、基本方針と三重県の水産業や豊かな自然に育まれた多彩な水産物をイメージさせるデザイン

- **募集期間** 令和5年12月18日（月）～令和6年2月22日（木）
- **応募総数** 953件
- **最優秀賞** 田中 奈美（四日市市）
- **作品説明** 多彩な水産物に恵まれた、豊かな海を虹色で表現しました。大漁旗のイメージに、三重らしさ（伊勢えび・ありのりふぐ・あおさ・はまぐり）を詰め込みました。



【前面】



【背面】



大会記念弁当

大会記念弁当 ～美し国みえのめぐみ弁当～

「美し国みえのめぐみ弁当」は、高校生レストランで全国的にも有名な県立相可高等学校調理クラブの皆さんに監修いただきました。

美し国の豊かな恵みをふんだんに盛り込むとともに、県内の高校生が作成に取り組んだ食材も使用するなど、三重の食材の魅力と三重の豊かな海を守っていきたいという思いの詰まった三重ならではの大会記念弁当となりました。



美し国みえのめぐみ弁当



監修者：県立相可高等学校調理クラブ



お品書き



お品書きデザイン：
県立明野高等学校 戸上 大地さん（3年生）



未利用魚「アイゴ」のさつま揚げ：
県立水産高等学校アクアフードコース



「伊勢まだいの味噌焼き」に使用した味噌：
県立四日市農芸高等学校食品科学科



豊かな海づくりフェスタ

大会本番に向けた放流等のリハーサルや、大会の周知、開催までの気運醸成を図るため、豊かな海づくりフェスタを開催しました。

概要

- 日時 令和7年5月31日(土) 10:30~15:30
 - 場所 宿田曾卸売市場(南伊勢町宿浦)
 - 内容
 - ・記念放流
 - ・なぶら太鼓による演奏
 - ・子ども神輿
 - ・餅まき
 - ・マグロ刺身ふるまい
 - ・大会ナビゲーターの紹介とスペシャルトークショー
 - ・ステージイベント等
- 県立神戸高等学校による吹奏楽演奏
 私立三重高等学校ダンス部パフォーマンス
 模擬セリ体験、漁業取締船等一般公開
 ・お楽しみ抽選会
- 来場者 約4,000人

第44回全国豊かな海づくり大会
 ~美し国みえ大会~
豊かな海づくりフェスタ
 5/31 10:30-15:30
 会場: 宿田曾卸売市場 (南伊勢町宿浦 1114-1)
 (伊勢市)

子ども神輿 10:30-12:30
 海上競漕パレードと記念放流
 餅まき 12:30-13:00
 マグロ刺身ふるまい 12:30-13:00
 ステージイベント 13:00-15:30

お楽しみ抽選会 15:15~ステージで発表
 会場のお買物・物販ブースで1,000円(税込)お買い上げ
 ごとに1枚抽選券を配布します。

主催: 第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会
 問合せ: 第44回全国豊かな海づくり大会
 三重県実行委員会事務局
 〒514-8522 伊勢市宿浦
<https://yutakana-umidokuri.pref.mie.lg.jp/>





リレー放流

大会開催に向けた気運醸成を図るとともに「つくり育てる漁業」の重要性を啓発する取組として、県内市町や水産関係団体等と連携して各地の沿岸や河川において稚魚の放流をリレー形式で実施しました。令和6年・令和7年の2年間で、52回、1,813名が参加して、魚類9種、甲殻類2種、貝類4種、2,450,011尾を放流しました。

令和6年度リレー放流

No.	実施日	市町村	放流場所	参加学校・団体等	参加人数	放流魚種	放流数	学習の内容等について
1	6月6日	南伊勢町	五ヶ所港	南伊勢町立南勢小学校	23	マダイ	5,000	①マダイについて ②ヒラメ・カサゴの標識放流体験
						カサゴ	2,500	
						ヒラメ	2,500	
2	6月15日	志摩市	安乗 浦の浜	志摩市立安乗保育所 私立えがお志摩保育園 志摩市立東海小学校	41	トラフグ	7,000	トラフグについて
3	6月21日	四日市市	磯津漁港	四日市市漁業協同組合	16	ヒラメ	3,850	
4	6月24日	南伊勢町	吉津港	南伊勢町立南島東小学校 南伊勢町立南島西小学校	13	マダイ	3,000	①マダイについて ②ヒラメ・カサゴの標識放流体験
						カサゴ	2,500	
						ヒラメ	2,500	
5	6月25日	松阪市	松名瀬海岸	松阪漁業協同組合	11	ガザミ	280,000	
6	6月28日	熊野市	遊木漁港	熊野漁業協同組合	7	トラフグ	5,000	
7	6月28日	四日市市	磯津漁港	四日市市漁業協同組合	9	マコガレイ	5,000	
8	7月6日	尾鷲市	古江漁港	アクアステーションイベント参加者	38	カサゴ	400	カサゴについて
9	7月7日	大台町	宮川	レディース鮎釣り選手権参加者	13	アユ	300	アユについて
10	7月14日	鳥羽市	相差漁港	相差天王くじら祭り参加者	6	アワビ	500	アワビについて
11	7月26日	紀北町	銚子川	銚子川環境保全会	10	ウナギ	131	ウナギ標識放流
12	8月5日	志摩市	安乗地先	三重外湾漁業協同組合	19	クルマエビ	259,800	
13	9月17日	紀北町	引本港	紀北町立潮南中学校 紀北町立三船中学校	32	マダイ	300	地元水産業について
14	9月20日	伊勢市	有滝地先	伊勢市立御園小学校	24	アサリ	1,500	①アサリについて ②クルマエビについて
						クルマエビ	300	
15	9月27日	伊勢市	有滝地先	伊勢市立御園小学校	25	アサリ	1,500	①アサリについて ②クルマエビについて
						クルマエビ	300	
16	10月5日	度会町	宮りパー度会パーク	度会町立度会小学校	53	ウナギ	467	①河川環境・生物多様性について ②ウナギについて
17	10月6日	南伊勢町	迫間浦	ファミリーフィッシング大会参加者	73	ヒラメ	1,600	ヒラメについて
18	10月10日	鈴鹿市	白子港	鈴鹿市立庄野小学校	26	アサリ	1,500	①アサリについて ②クルマエビについて
						クルマエビ	300	
19	10月16日	伊勢市	豊北漁港	伊勢市立修道小学校	35	マダイ	230	マダイについて
20	10月22日	志摩市	賢島	私立しまの杜こども園	30	アコヤガイ (手渡し)	1,500	真珠養殖について
21	10月28日	鈴鹿市	白子港	松阪市立第四小学校	75	クルマエビ	1,000	クルマエビについて
22	10月29日	伊勢市	豊北漁港	伊勢市立修道小学校	35	マダイ	230	マダイについて
23	11月12日	伊勢市	豊北漁港	伊勢市立進修小学校	31	マダイ	210	マダイについて
24	11月12日	桑名市	長島干潟	桑名市立城東小学校	11	ハマグリ	1,700,000	ハマグリについて
25	11月12日	伊勢市	豊北漁港	三重県水産振興事業団	8	トラフグ	1,262	
26	11月14日	桑名市	揖斐川	私立ゆい保育園	30	フナ	600	①河川環境について ②フナについて
27	11月19日	四日市市	磯津漁港	四日市市立磯津保育園	7	アサリ	1,000	アサリについて
28	11月19日	志摩市	和具漁港地先	県立水産高等学校	33	アワビ	3,000	アワビについて



リレー放流

令和6年度リレー放流

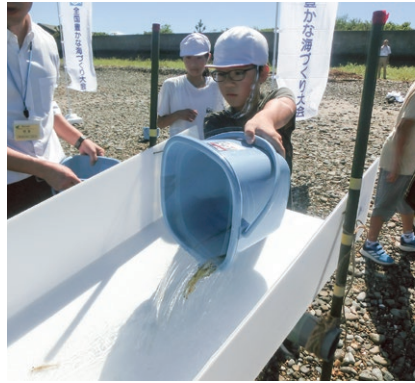
No.	実施日	市町村	放流場所	参加学校・団体等	参加人数	放流魚種	放流数	学習の内容等について
29	11月22日	尾鷲市	古江漁港	三重県水産振興事業団	9	マダイ	1,931	
30	11月25日	大紀町	錦地先海岸	大紀町立錦小学校 日本釣振興会三重支部	8	ヒラメ	2,500	①ヒラメについて ②環境保全について
31	11月28日	鈴鹿市	白子港	鈴鹿市立天名小学校 鈴鹿市立郡山小学校 鈴鹿市立合川小学校	60	アサリ	1,500	アサリ資源について
32	1月15日	津市 四日市市	津港沖 霞沖	日本釣振興会三重支部	8	ヒラメ	2,700	
33	2月 5日	大紀町	大内山川支川唐子川	大紀町立大紀小学校	10	アマゴ	2,000	アマゴについて
34	2月12日	鳥羽市	国崎漁港地先	日本釣振興会三重支部	8	ヒラメ	1,800	
35	3月19日	津市	贄崎港地先	アサヒレジャー株式会社	42	ヒラメ	1,500	
36	3月22日	度会町	宮川支川一之瀬川	県立水産高等学校	12	アマゴ	1,000	アマゴについて

令和7年度リレー放流

No.	実施日	市町村	放流場所	参加学校・団体等	参加人数	放流魚種	放流数	学習の内容等について
37	4月 1日	大紀町	大内山川	大紀町地元学童児童	37	アユ	67,800	アユについて
38	4月15日	大紀町	錦漁港	大紀町立大紀小学校	16	カサゴ	15,000	①カサゴについて ②地元水産業について
39	5月13日	津市	雲出川支川八手俣川	津市立美杉小学校	8	アユ	4,500	①アユについて ②河川環境の保全について
40	5月21日	尾鷲市	天満浦	尾鷲市立宮之上小学校	18	ヒラメ	1,500	①ヒラメの栽培漁業について ②マハタ養殖について
41	5月27日	鳥羽市	沖ノ島海岸	鳥羽市立菅島小学校	21	ヒラメ	1,000	①ヒラメについて ②地元水産業について
42	5月29日	四日市市	磯津地区海岸	四日市市立磯津保育園	15	ヒラメ	10,000	①ヒラメについて ②地元水産業について
43	6月 4日	南伊勢町	五ヶ所港	南伊勢町立南勢小学校	30	カサゴ マダイ	1,750 250	カサゴ・ヒラメの標識放流体験
44	6月 6日	松阪市	櫛田川支川蓮川	松阪市立香肌小学校 松阪市立宮前小学校 日本釣振興会三重支部	30	アマゴ	8,000	①アマゴについて ②アマゴ釣り体験学習
45	6月10日	鳥羽市	答志魚市場	鳥羽市立答志保育所 鳥羽市立答志小学校	49	ヒラメ	11,000	①ヒラメについて ②地元水産業について
46	5月31日	南伊勢町	宿田曾漁港	豊かな海づくりフェスタ来場者	200	マダイ	1,000	
47	6月15日	志摩市	浜島港	志摩の豊かな海づくりフェスタ来場者	300	ヒラメ マダイ	1,000 1,000	
48	6月19日	熊野市	遊木漁港	熊野市立新鹿小学校 熊野市立新鹿中学校	38	トラフグ	5,000	①トラフグについて ②栽培漁業について
49	6月25日	津市	白塚漁港近辺海岸	津市立白塚小学校	80	マダイ	1,500	マダイについて
50	6月26日	南伊勢町	吉津港	南伊勢町立南島東小学校 南伊勢町立南島西小学校	20	カサゴ マダイ	1,750 250	①地元水産業について ②カサゴ・ヒラメの標識放流体験
51	7月 5日	志摩市	安乗 浦の浜	志摩市立安乗保育所 私立えがお保育園 志摩市立東海小学校等	30	トラフグ	5,000	①トラフグについて ②資源管理について
52	7月 8日	紀北町	長島港	紀北町立紀北中学校 紀北町立赤羽中学校	30	マダイ	1,000	イワガキ養殖について



リレー放流





広報活動等

大会公式ホームページ

大会行事やそれにまつわる関連行事、豊かな海づくりに向けた取組等について、県民の皆さんをはじめ全国へ発信するため、大会公式ホームページを開設しました。

リレー放流や気運醸成PRイベントの情報、三重県のおさかな紹介ページや三重県の魅力紹介ページを設け、全国に発信しました。



フォトコンテスト

フォトコンテスト作品募集

応募期間 令和6年11月1日(金)～令和7年1月31日(金)

大会の開催を記念してフォトコンテストを実施しました。

■募集期間 令和6年11月1日(金)～令和7年1月31日(金)

- 募集部門 【自然・景観部門】
- 【にぎわい・伝統部門】

豊かな海や多彩な水産物をイメージさせる光景

水産業で働く人の活気を伝える光景や伝統的な漁村祭り、海女漁業などの三重県ならではの特色のある光景



【自然・景観部門】最優秀賞
「アオサの海（三重県南伊勢町内瀬）」岡本 一高



【にぎわい・伝統部門】最優秀賞
「御木曳（三重県鳥羽市神島）」平賀 政未



大会PR

県内各地で行われる市町でのイベントやお祭り行事などの機会に、水産関係以外についても対象として、大会開催の気運醸成を図ることを目的としたPR活動を実施しました。また、三重県と協定を締結している事業者の協力を得て、独自に水産業に親しむことが出来るイベントも実施し、「豊かな海」の大切さを訴える取組を行いました。

No.	実施年月日	行事名	場所
1	10月14日	みなみいせまつり	南伊勢町 奈屋浦漁港
2	10月17日	三重県実行委員会事務局看板掲揚式	津市 三重県庁
3	10月23日	第44回全国豊かな海づくり大会開催決定式典	志摩市 志摩市阿児アリーナ
4	12月28日	年末即売会（みえぎょれん）	伊勢市 県営サンアリーナ
5	12月30日	三重外湾漁業協同組合年末感謝祭	南伊勢町 奈屋浦漁港
6	1月27日	三重テラスin大阪	大阪府 ホワイティうめだ
7	2月17日	第44回全国豊かな海づくり大会体験イベント	東員町 イオンモール東員
8	3月17日	南伊勢町防災フェア	南伊勢町 宿田曾漁港
9	4月 6日	錦ぶりまつり	大紀町 錦漁港
10	4月13日	三重県フェア	津市 イオンモール津南
11	5月18日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	四日市市 イオンモール四日市北
12	6月 1日	松阪漁業まつり	松阪市 獺師漁港
13	6月15日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	桑名市 イオンモール桑名
14	7月 6日	赤須賀漁業まつり	桑名市 桑名港
15	7月 6日	県内一斉海浜清掃中央会場（白塚海岸）	津市 白塚海岸
16	7月21日	マリンスポーツ体験会	菟野町 小島スポーツ公園
17	7月27日	鈴コミ海まつり	鈴鹿市 鈴鹿コミュニティー
18	8月 4日	四日市港まつり	四日市市 四日市港
19	8月10日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	伊賀市 イオン伊賀上野店
20	8月25日	水上カーニバル&スポーツカーニバル	大台町 B&G 海洋センター
21	9月 7日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	名張市 イオン名張店
22	9月21日	TOINマルシェ	東員町 中部公園
23	9月22日	mihama 食とモノ市場	御浜町 パーク七里御浜
24	10月19日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	鈴鹿市 イオンモール鈴鹿
25	10月 5日	白塚おさかな祭り	津市 白塚漁港
26	10月 5日	みえ森林フェスタ2024志摩	志摩市 志摩市阿児アリーナ
27	10月12日	伊勢まつり	伊勢市 伊勢市駅周辺
28	10月19日	鳥羽市魚魚まつり	鳥羽市 鳥羽マリンターミナル
29	10月20日	紀宝みなとフェスティバル	紀宝町 鶴殿港
30	11月 2日	おわせ魚まつり	尾鷲市 尾鷲魚市場
31	11月 4日	開催1年前プレイベントin三重テラス	東京都 三重テラス
32	11月9日-10日	豊かな海づくりフェスタ	大分県 祝祭の広場
33	11月16日	「山・川・海～思いやりの森」造成活動	岐阜県 クオーレふれあいの里
34	12月 7日	三重県フェア	京都府 イオンモール京都桂川
35	12月24日	年末きいながしま港市	紀北町 長島港
36	12月30日	三重外湾漁業協同組合年末感謝祭	南伊勢町 奈屋浦漁港



大会PR

No.	実施年月日	行事名	場所
37	1月25日	第44回全国豊かな海づくり大会キックオフイベント	志摩市 志摩市阿児アリーナ
38	2月 8日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	熊野市 イオン熊野店
39	3月 9日	いなべ市梅まつり	いなべ市 農業公園
40	3月 8日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	尾鷲市 イオン尾鷲店
41	3月16日	こどもわいわいフェスティバル代替PR活動	明和町 斎宮歴史博物館
42	3月16日	伸びゆく木曾岬町のふれあい広場	木曾岬町 木曾岬町役場
43	3月29日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	明和町 イオンモール明和
44	3月29日	錦ぶりまつり	大紀町 錦漁港
45	4月 6日	玉城町桜まつり	玉城町 玉城城址
46	4月19日	三重県フェア	津市 イオンモール津南
47	4月23日	カウントダウンボード除幕式	津市 三重県庁
48	4月26日	県民の日記念行事	津市 総合文化センター
49	5月16日-18日	三重県フェア	東京都 イオン板橋ショッピングセンター
50	5月24日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	鳥羽市 イオン鳥羽店
51	5月25日	オール熊野フェスタ	熊野市 熊野市駅周辺
52	5月31日	豊かな海づくりフェスタ	南伊勢町 宿田曾卸売市場
53	6月6日-8日	三重県フェア	大阪府 イオンモール堺北花田
54	6月 8日	大師の里・彦左衛門のあじさいまつり	多気町 ふれあいの森
55	6月8日-10日	ジャパンパルフェア	兵庫県 神戸国際展示場
56	6月12日	全国一斉海浜清掃旗揚げ式	南伊勢町 宿田曾漁港周辺
57	6月14日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	伊勢市 イオン伊勢店
58	6月15日	志摩の豊かな海づくりフェスタ	志摩市 浜島港
59	6月20日-22日	三重県フェア	北海道 イオンモール札幌発寒
60	7月 5日	県内一斉海浜清掃中央会場(白塚海岸)	津市 白塚海岸
61	7月15日	紀伊半島知事会議	志摩市 ネムリゾート
62	8月 2日	南伊勢町水産センター一般公開	南伊勢町 南伊勢町水産センター
63	8月10日	アソボ・マナボ・タノシソウブン	津市 総合文化センター
64	8月23日	体験イベント 美し三重のお魚について知ろう！	志摩市 イオン阿児店
65	8月23日	市民夏のにぎわいフェスタ	伊賀市 ハイピア伊賀
66	8月23日	三重県警察音楽隊安心安全コンサート	鈴鹿市 イオンモール鈴鹿
67	9月4日-7日	三重県フェア	福岡県 イオンモール福岡
68	9月12日-15日	三重県フェア	埼玉県 レイクタウン越谷
69	9月16日	EXPOキャラクターワールドフェスティバル	大阪府 万博会場
70	10月6日-13日	海女漁と三重の食	大阪府 万博会場

令和7年

※各行事から抜粋した写真をP60にNo.と共に掲載



大会PR



No.1 来賓として廣田副知事挨拶



No.7 海の生き物アクセサリ作り



No.10 大会紹介ステージ



No.15 海浜清掃参加



No.18 カッターレース参加



No.29 海の生き物うちわ作り



No.31 真珠フォトフレーム作り



No.32 三重県PRステージ



No.34 三重県産品じゃんけん大会



No.37 会場での大会PR



No.47 開催まで200日



No.51 チラシ配布・缶バッジ製作体験



No.64 おさかなぬりえ



No.67 とこまるグリーティング



No.69 EXPOキャラクターパレード



全国一斉海浜清掃旗揚げ式

令和7年6月12日（木）に南伊勢町の宿田曾漁港及びその周辺において、「第44回全国豊かな海づくり大会開催記念 令和7年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式&南伊勢町クリーン大作戦」を行いました。地元の参加者からは、「日頃から清掃活動をしており、全国豊かな海づくり大会の会場となって嬉しい」との声も聞かれました。

- **共 催** 南伊勢町、公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構、三重外湾漁業協同組合、三重県漁業協同組合連合会
- **実施時間** 午後1時30分～午後3時
- **海岸名等** 宿田曾漁港、田曾白浜
- **参加人数** 262人
- **ごみの量** 自然物318袋、人工物435袋





テレビ番組

テレビ

放送日	放送局	番組名	内容 場所 概要等
令和6年10月14日 (月・祝)	三重テレビ	新・ええじゃないか	大会・1年前イベント紹介、南伊勢町
令和6年10月24日 (木)	三重テレビ	Mieライブ	大会・1年前イベント紹介、局スタジオ
令和7年 6月25日 (水)	CBC	よしお兄さんのもっと“みえ”推し!	県尾鷲栽培漁業センター
令和7年 7月23日 (水)	CBC	よしお兄さんのもっと“みえ”推し!	南伊勢町水産センター
令和7年 8月17日 (日)	三重テレビ	県政だよりみえ	大会・施策紹介、県水産研究所
令和7年 8月27日 (水)	CBC	よしお兄さんのもっと“みえ”推し!	県水産研究所
令和7年 9月17日 (水)	CBC	よしお兄さんのもっと“みえ”推し!	伊勢まだい・伊勢ぶり、大紀町
令和7年10月13日 (月)	三重テレビ	新・ええじゃないか	関連行事会場紹介、志摩市
令和7年10月17日 (金)	三重テレビ	日本まんなか直送便	関連行事会場紹介、南伊勢町
令和7年10月19日 (日)	三重テレビ	県政だよりみえ	県立水産高等学校紹介、志摩市
令和7年10月27日 (月)	三重テレビ	Mieライブ	関連行事会場紹介、局スタジオ
令和7年11月4日 (火)-7日 (金)	NHK	まるっとみえ うみとつきあうWEEK	県内水産関連特集
令和7年11月24日 (月)	NHK	海特集みえスペシャル、大会	特別番組3本、本大会



三重テレビ 令和6年10月14日(月・祝)「ええじゃないか」



三重テレビ 令和6年10月24日(木)「Mieライブ」



三重テレビ 令和7年10月19日(日) 県政だよりみえ



三重テレビ 令和7年10月27日(月)「Mieライブ」

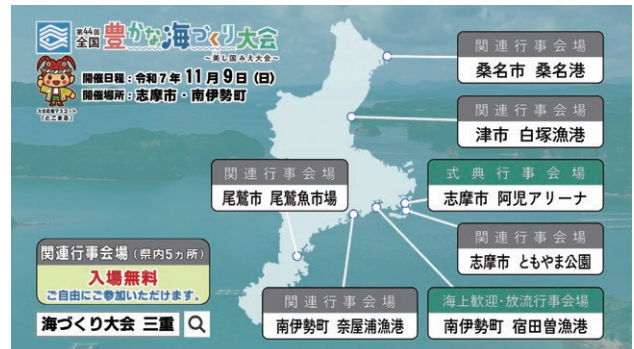
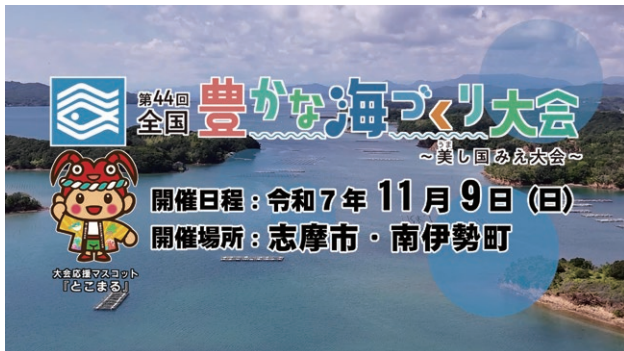


テレビ・ラジオCM

- 三重テレビ放送
- 放送期間：令和7年10月25日（土）～11月8日（土）
- 放送尺：15秒 放送回数：61回

ナレーション

第44回全国豊かな海づくり大会美し国みえ大会が、11月9日に志摩市と南伊勢町で開催！
大会当日は県内5カ所の関連行事会場にぜひご来場ください！



- レディオキューブFM三重（三重エフエム放送）
- 放送期間：令和7年10月22日（水）～11月7日（金）
- 放送尺：40秒 放送回数：20回

ナレーション

A：11月9日 日曜は、「第44回全国豊かな海づくり大会」を志摩市と南伊勢町で開催！

B：県内5カ所では楽しい関連イベントも！

A：志摩市ともやま公園では、ステージイベントにタレントのさかなクンやよしお兄さんが登場！

B：奈屋浦（なやうら）漁港では、ココリコ田中さんの楽しいトークイベント。

A：尾鷲魚（うお）市場では、ミニ水族館やタッチプール、マグロの解体ショーに、大敷汁（おおしきじる）のふるまいも！

B：桑名港や白塚漁港では、水産物の即売会やふるまいなどが楽しめます！

A：おトク満載のイベントへ、ぜひお出かけください。

B：詳しくは「海づくり大会 三重」で検索！



大会公式ポスター



受け継ごう
命あふれる
清い海

大会応援マスコット とこまる



第44回
全国

豊かな海づくり大会

うま
～ 美し国みえ大会～

令和7年

11月9日



海づくり大会 三重 Q

◀大会公式HP情報はこちら

公式Instagramはこちら▶



開催場所

式典行事

志摩市阿児アリーナ(志摩市)

関連行事

桑名港(桑名市)、白塚漁港(津市)、志摩市ともやま公園(志摩市)、
奈屋浦漁港(南伊勢町)、尾鷲魚市場(尾鷲市)

海上歓迎・放流行事

宿田曾漁港(南伊勢町)

お問い合わせ

第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会事務局(三重県全国豊かな海づくり大会推進PT内)
〒514-0004 津市栄町1丁目954(栄町庁舎5階)
TEL:059-224-2162 FAX:059-224-2059

主催：豊かな海づくり大会推進委員会
第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会
後援：農林水産省、環境省

受け継ごう 命あふれる 清い海



第44回
全国

豊かな海づくり大会

うま
～ 美し国みえ大会～

資料編



功績団体表彰

各部門受賞団体一覧

部門名	賞名	都道府県	団体名
栽培漁業部門	大会会長賞	大阪府	魚庭の海づくり実行委員会
	農林水産大臣賞	三重県	伊勢湾口地区ふぐ延縄協議会
	環境大臣賞	山口県	公益社団法人山口県光・熊毛地区栽培漁業協会
	水産庁長官賞	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島水産高等学校
資源管理型漁業部門	大会会長賞	三重県	鈴鹿市漁業協同組合
	農林水産大臣賞	千葉県	銚子市漁業協同組合外川支所漁業者協議会
	環境大臣賞	大阪府	泉佐野漁業協同組合
	水産庁長官賞	鳥取県	鳥取県漁業協同組合境港支所潜水グループ
漁場・環境保全部門	大会会長賞	三重県	22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
	農林水産大臣賞	熊本県	熊本県立天草高等学校 科学部
	環境大臣賞	大阪府	～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」
	水産庁長官賞	千葉県	特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団





作品コンクール

作文

- **応募資格** 三重県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校（小学部、中学部、高等部）の児童、生徒
- **募集部門**
 1. 小学校低学年の部（1年生～3年生）
 2. 小学校高学年の部（4年生～6年生）
 3. 中学校の部
 4. 高等学校の部
- **募集期間** 令和7年4月1日（火）～6月6日（金）
※高等学校の部のみ6月30日（月）まで延長
- **題 材** 「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。
（海・川・森での体験や思い出、海、川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を守るためにできることなど）



応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	高等学校の部	合計
14点	38点	145点	7点	204点

1. 小学校低学年の部

賞 名	題 名	学校名	学年	氏 名
大会会長賞	うなぎを生育して分かったこと	志摩市立鵜方小学校	3	大形 理紗
農林水産大臣賞	おいしいさかなをいっぱい食べたい	鈴鹿市立旭が丘小学校	2	沖 明香里
環境大臣賞	海を守るため、わたしができることは	伊勢市立修道小学校	2	岩城 美音
水産庁長官賞	うみはわたしのごきんじょさん	伊勢市立北浜小学校	1	中村 雅
三重県知事賞	ゆたかな海をまもるには	志摩市立鵜方小学校	3	山本 紗良
入選	みんなが守る大切な川	桑名市立多度東小学校	3	岡田 絵舞
	わたしの大ききな川	志摩市立大王小学校	3	坂中 里緒
	日本一カツオ村に住むわたし	南伊勢町立南勢小学校	2	田岡 礼羅
	海や川をきれいに	三重大学教育学部附属小学校	3	堀内 惺翔
	ちぎゅうをきれいに	三重大学教育学部附属小学校	2	堀内 悠貴



作文

2. 小学校高学年の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	海へのおくりもの	津市立南が丘小学校	4	中川 絢葉
農林水産大臣賞	海の恵み	伊勢市立明野小学校	6	坂口 遥音
環境大臣賞	海へ恩返し	熊野市立有馬小学校	4	五味 沙音梨
水産庁長官賞	海のある生活を大切に	志摩市立鵜方小学校	6	竹内 虹瑚
三重県知事賞	私が大好きな志まの海	津市立西が丘小学校	4	小川 彩良
入選	うわーっ重い	鳥羽市立菅島小学校	4	井尻 暖花
	未来のエビへ	津市立新町小学校	5	後藤 春翔
	海が泣いている	伊勢市立浜郷小学校	5	田村 柚乃
	海を守るために一歩ずつ	桑名市立長島北部小学校	4	服部 永和
	キラキラの正体と私にできること	津市立神戸小学校	5	山崎 智乃美

3. 中学校の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	海苔で伝える海の危機	鳥羽市立答志中学校	3	川原 瑠心
農林水産大臣賞	大好きな魚を食べるまでに	尾鷲市立尾鷲中学校	3	丸田 仁子
環境大臣賞	海の豊かさを守るために	志摩市立文岡中学校	2	岡本 莉愛
水産庁長官賞	力を合わせて守ろう、三重の海	三重大学教育学部附属中学校	2	須永 光玲
三重県知事賞	海洋保全で伝統継承	志摩市立文岡中学校	2	石野 未空
入選	志摩の豊かな海	志摩市立磯部中学校	3	大形 愛
	思い出の海を守っていきたい	志摩市立磯部中学校	2	小河 真菜
	一人一人の行動が海を救う？！	津市立南が丘中学校	1	長 涼那
	豊かな自然を感じて	志摩市立磯部中学校	2	西 柚樹
	海と私たち	志摩市立磯部中学校	3	前田 優花

4. 高等学校の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	美し国みえを次の世代へ	学校法人三重高等学校 三重高等学校	1	桃井 茜
農林水産大臣賞	海が好きな自分	三重県立水産高等学校	1	権代 広喜
環境大臣賞	海はブルー	三重県立宇治山田高等学校	2	池田 光
水産庁長官賞	地政学から見た「豊かな海」	学校法人皇學館 皇學館高等学校	2	伊東 亜里紗
三重県知事賞	豊かな海を未来へつなげるために	三重県立水産高等学校	2	佐古 拓士
入選	海がくれたもの	三重県立水産高等学校	1	磯和 怜
	二十四人の水産魂	三重県立水産高等学校	3	岡田 波瑠



大会会長賞受賞作品

小学校低学年の部

志摩市立鵜方小学校3年 大形 理紗

うなぎを子育てして分かったこと

きよ年の夏、家ぞくでうなぎつりに行きました。二ひきつれて、一ぴきは小さかったので、「大きくなってね。」とねがいを入れて川にかえました。もう一ぴきは、わたしのきぼうで家でかうことになりました。名前はウナです。うなぎをかってみて、どんどん好きになったので、もっとうなぎのことを知りたいなと思いました。

ウナは天ねんのうなぎですが、お店で売っている物は99パーセントがようしょくだそうです。天ねん物はとりすぎていたり、河川のかんきょうへんかで、げん少していることがわかりました。そして、今年の春に、うなぎで有名なしづ岡県の浜名湖へ行きました。うなぎの研究しせつで教えてもらいましたが、ようしょくうなぎのほとんどが、オスになってしまったり、シラスウナギのエサを作ることに苦ろうしたりしているそうです。完全ようしょくがせいこうしたらいいなと思うけれど、天ねんのうなぎが、ようしょくうなぎといっしょくらいふえたら、一番いいなと思いました。そのために、川や海などを豊かにしていきたいです。

川遊びや海へつりに行った時、ペットボトルやビニールぶくろがたくさんおちています。前に、ゴミひろいのイベントにさ

んかしたことがあります。おどろくほどゴミがあつまりました。ゴミをそのままにしておくと、ウミガメや魚がエサとまちがえて食べてしまうそうです。ゴミを分べつしたり、リサイクルすることは、小学生のわたしでもできるので、つづけていきたいです。

もう一つ気になることがあります。夏に海に行くとチョウチョウオやスズメダイをたくさん見ることです。わたしは、「いろんな色の魚がいて、きれいだな。」と思いましたが、お父さんが、「本当はあたたかい海に多い魚だけど、温だん化でふえているんだよ。」と教えてくれました。反対に志摩市では、イセエビやアワビなどが少なくなっているとテレビで見ました。魚がたくさんいるだけでは、豊かな海ではないと思いました。志摩市も南いせ町も漁師さんがたくさんいるので、豊かな海づくりは大切です。

うなぎを子育てしたおかげで、川や海について考えることができました。この大会でもたくさんの人に、三重の海のよい所を知ってもらいたいです。そして、わたしも家ぞくで魚つりにいきたいです。

小学校高学年の部

津市立南が丘小学校4年 中川 絢葉

海へのおくりもの

わたしは、お父さんとお母さんのふるさと、伊勢市で生まれました。小さいころからおばあちゃんが作ってくれるイガミやムツにつけ、貝柱のてんぷら、あおさのおみそしるが大好きです。魚や貝、海そうなどの海の幸のおかげで、体がじょうぶになり、大きくなったと思っています。

また、わたしは平安時代のれきしや文化が好きで、特に伊勢神宮に仕えていたさい王様にきょう味があります。さい王様のことを調べていると、平安時代の「さい宮貝合日記」に、良子さい王様が貝で遊んでいたと書かれていることがわかりました。十二才の良子さい王様をよろこばせるために、まわりの人や女ぼうたちが、近くのはまに出て、さまざまな美しい貝を拾い集めたそうです。さい王様に仕えていた人たちは、お父さんやお母さんとはなれてすずさい王様のさびしさをやわらげるために、みんなで貝で遊ぶことを思いついたのだと思います。わたしは、良子さい王様が遊んだ貝と同じ貝があると信じて、さい宮から一番近い大淀のはまへおじいちゃんで行きました。大淀のはまで、アメジストみたいな色の貝やしまも様の貝をたくさん拾いました。良子さい王様が遊んだ貝はどれかな。良子さい王様はどんな貝がすきだったのかな。拾ってきた貝をならべながら図かんで貝の名前を調べたり、平安時代のさい王様のみやびな遊びを想ぞうしたりしていると、あつという間に時間がすぎていきました。

海は、わたしの体と心を育ててくれました。これは海からわたしへのおくりものだと思います。海のおかげで、三重県のれきしや文化、自ぜんのことをもっと知りたくなりました。今年の夏休みは、「さい宮貝合日記」の歌に出てくる藤方や二見など

他のはまにも行って貝について調べてみようと思います。

さらに、海のはく物館へ行って、ひいおじいちゃんがりょうで使っていたという「たこかご」や「いそかがみ（箱めがね）」をさがしてみようと思います。ひいおじいちゃんは、オリジナルのたこかごを作って、海の中に仕かけて魚をとっていました。ひいおじいちゃんのたこかごは、形が変わっているうえに、魚が一度入ると出てこられないように工夫されていて、魚がたくさん入ったそうです。ひいおじいちゃんがなくなった後も、そのたこかごは仲間の人たちが使ってくれたと聞いて、ひいおじいちゃんの作った道具が大切にされていたことが分かってうれしかったです。

おばあちゃんは、子どものころ、りょうのお手伝いをした時に、いそかがみを使って海のをそこを見たことがあるそうです。「内海だけだとたくさんのしゅ類の魚がいてとてもきれいだったよ。水族館みたいだったよ。」と、なつかしうに言っていました。かがみにうつつみたいにはっきり海の中が見えるといういそかがみ。海に近くにくらす人びとは道具にすてきな名前をつけていたのです。わたしもいそかがみで海の中を見てみたいです。

海には、まだまだわたしの知らないみ力があります。わたしのしょう来のゆめは、作家になることです。わたしの体と心を大きくしてくれた海と、わたしをみりょうするれきしや文化は、つながっています。豊かな海のみ力について、人びとのくらしと一しょに、自分の言葉で伝えていいたら、わたしから海へのおくりものになるのではないのでしょうか。

いつか、さい王様を主人公にして、三重県内のはまを旅して、貝を拾っていく物語を書いてみたいと思います。



大会会長賞受賞作品

中学校の部

鳥羽市立答志中学校3年 川原 瑠心

海苔で伝える海の危機

私の家は、答志島で海苔屋をしています。小学校二年生の時、私は初めて海苔の手伝いをしました。ひたすら同じことを繰り返すのは大変でしたが、海苔仕事に対して「楽しい」という気持ちが大きかったです。まだ小さかった私にとって、目線ぐらいの高さにあるかごに海苔を入れる作業は、本当にきつくて、正直、この仕事だけはやりたくなかったです。でも、小さいながらも、父や母が着ているカップパをとてまっかこよく思い、「瑠心もカップパ着たい。」と母に頼んだのを覚えています。母が以前使っていたカップパの裾を短く切って、私に合うカップパを作ってくれました。ずっと憧れていたの、叶って本当に嬉しくて、中学生になるまで使い続けました。

中学生になると、私の身長は高くなり、気づけば、かごの高さは、目線より下になっていました。カップパも大人のサイズを着られるようになり、昇格した気分が誇らしかったです。ただ、私も一人前として働かなければならないので、小学生の時と比べると手伝いの量が増え、大変にはなりました。

小二から今まで仕事を手伝ってきて、冬の大変な時期を何度も迎えてきました。その中で、仕事以外で学んだことがあります。それは、私の家はたくさんの人に支えられて海苔を続けられているということです。昔から働いてくれている、その人たちとの会話はすごく楽しく、疲れていても元気がでます。話すたびにみんなが笑顔になって、あたたかい場所だなど、納屋へ行くたびに思います。私がかたくたになっている時には、「えらいなあ。まあ帰ってもえーないぞ。」と、優しい笑顔と言葉を向けてくれます。だからこそ、最後まで頑張ろうと思うことができます。私が小さい時から何も変わらない日常が、今も続いています。美味しい海苔がとれているのは、この人たちの支えがあるからなんだと心の底から感じます。

何年か前に、海苔の色落ちて、海苔屋にとって苦しい時期がありました。海苔を摘んできても捨てるという作業の繰り返しでした。私もその手伝いをしましたが、あれは、最悪と言っていい状態でした。まず、父が摘んできた海苔を見て目を疑いました。黒色からかけ離れた色でした。それも大量に。父と母は私とは違う感情を抱きながら、私が見ているのと同じ海苔を見ていたと思います。私の知らないたくさんの工夫と努力が消えてしまう瞬間でした。夜遅くに母が一人で泣いていたのを見て、海苔仕事はこんなにも難しくて苦しいんだと初めて知りました。

今年は真っ黒な海苔で父と母の嬉しそうな顔は、今までにないくらい輝いていました。答志の海苔は美味しいと言う声をたくさんいただくことが増え、嬉しいし誇らしいです。父と母、働いてくれている方々の苦労を消費者は知らないかもしれないけれど、私は近くで見えてきました。逃げたくなるときもあつたと思いますが、いろんな状態の海苔と向き合い続けて今があります。たくさんの人に食べてもらえることは、海苔屋の娘の一人として本当に嬉しいことです。いい海苔をとるには、きれいな海ではなく、豊かな海が必要です。豊かな海にはたくさん人の栄養があり、海藻や魚にとって大事な要素が入っています。でも、その豊かな海が失われつつあります。この現実を見過ごしてしまえば、もう二度と今のようないい海産物はとれなくなってしまうかもしれません。そんな中で、私たちにできることは、どのような海がこれからの漁業をする上で必要なかを正しく知り、今の海の現状をたくさんの人に知ってもらうことだと思います。大好きな答志の海を守るために、私は、先の見えない自然とこれからも向き合っていきたいです。

高等学校の部

学校法人三重高等学校 三重高等学校1年 桃井 茜

美し国みえを次の世代へ

三重県は古来より、「うましくに」と呼ばれてきた。日本最古の正史、日本書紀に「可憐国（うましくに）」＝「美しいよい国である」と記されている。三重県はかつての、伊勢・伊賀・志摩・紀伊の四国から成った珍しい地であり、東西の人々が行き交う交通の要であった。「伊勢に七度、熊野に三度」という言葉があった程、誰もが訪れたいと願う憧れの地である。二千年以上の歴史を有し、日本人の心のふるさとと称される伊勢神宮や、世界でも珍しい道の世界遺産、熊野古道伊勢路は日本のこのころの原点を象徴する存在であり、今もなお、多くの人々が訪れている。また、海山に囲まれた三重県は南北に長く、南には紀伊山地と黒潮の流れる熊野灘、リアス海岸。尾鷲から大台ヶ原山系一帯は、国内有数の多雨地帯で、日本一の清流といわれている宮川や、海水と淡水の境界がはっきり見える銚子川は多雨がもたらした清流といえる。そうした自然豊かな海山は、季節によって様々な表情と豊かな恵み、幸せをもたらしてくれている。

私の生活の中でも、海は身近な存在で、幼稚園の行事で市内の海岸へ貝殻拾いに行ったり、小学校五・六年生の時に、日本財団の「海と日本プロジェクトin三重」に参加したり、中学二年生では、海の学校という校外授業があり、海の生物について学ぶ機会があった。その中の「海と日本プロジェクト」では、三重県水産研究所の方から、三重の海の現状やアワビについての講演、志摩市の海女さんとの交流では、海女小屋体験や海女漁の見学をした。日本の海女さんの約半数を三重県が占めている。鳥羽・志摩の海女漁業は、平成二十九年に日本農業遺産にも認定された。海女漁業の歴史は古く、約二千年前から行われている。海女さんは、安全に漁をする為に数名で漁に出ることや、一定の大きさ以下のアワビは漁獲しないこと、また

漁に出られる期間が決められている良質なアワビは、伊勢神宮などに奉納されるなど、伝統と海を守ってきた。しかし、現在では昭和には六千人いた海女さんは十分の一以下に減少している。原因としては、後継者不足や漁獲量の減少などがある。漁獲量の減少として考えられることとしては、地球温暖化による海水温の上昇による環境の変化、食害生物の増加や海の守り方を知らない一部の人が、乱獲や密漁を行うという問題が起こっているからだ。

これらの問題を解決する手がかりとして、三重県内では、後継者の育成、藻場再生・磯焼け対策、アワビを増やすなど、海女さんを応援する様々な取り組みが行われている。その他、三重県では、水産資源管理に以前から積極的に取り組んでおり、現在では、伝統的な技法だけでなく、デジタルの力を活用し、三重の海を守っている。

では、私のできることは何だろうか考えたとき、ふと海女小屋での海女さんの言葉を思い出した。「今は海のもの苦手な子が多いでな。せつかく三重にはええ海のものあるのもったいな。いっぱい食べてな、私また潜って取ってくるで！」と、笑顔いっぱいの元気な年配の海女さんの顔が思い浮かんだ。幸いにも私は、海産物が大好きだ。地球温暖化による海水温の上昇などの自然現象には、私一人ではなかなか立ち向かうことは難しいが、海を汚さないなど、当たり前なことから心掛けることが大切だ。また、最も身近でできることは、大好きな三重の海産物をおいしくいただくことだ。そして、歴史と伝統のある水産の象徴である海女さんをはじめとした海、川、山の自然豊かな「美し国みえ」を誇りに思い、次の世代へも大切に受け継いでいきたい。



作品コンクール

作文 表賞状授与



志摩市立鷺方小学校3年 大形 理紗



津市立南が丘小学校4年 中川 絢葉



鳥羽市立答志中学校3年 川原 瑠心



学校法人三重高等学校 三重高等学校1年 桃井 茜



作品コンクール

絵画

- **応募資格** 三重県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る）及び特別支援学校（小学部、中学部）の児童、生徒
- **募集部門** 1. 小学校低学年の部（1年生～3年生）
2. 小学校高学年の部（4年生～6年生）
3. 中学校の部
- **募集期間** 令和7年4月1日（火）～6月6日（金）
- **題材** 「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。
（海・川・森での体験や思い出、海、川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を守るためにできることなど）

応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	合計
708点	586点	320点	1,614点

1. 小学校低学年の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	ファンタスティック海	桑名市立多度東小学校	3	岡田 絵舞
三重県教育委員会教育長賞	海女さんと海の生き物たち	志摩市立鶴方小学校	3	濱辺 航
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	とれたてのいせえび	志摩市立大王小学校	3	坂中 蘭
入選	海と魚とボク	桑名市立多度東小学校	1	岡田 紬来
	魚いっぱい大すきな海	伊勢市立小俣小学校	2	梅前 杏菜
	わかめがりたいけん	津市立新町小学校	3	中山 真穂

2. 小学校高学年の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	志摩市の豊かな海	志摩市立神明小学校	6	東山 利香
三重県教育委員会教育長賞	海とゴミ	三重大学教育学部附属小学校	6	永尾 恵美
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	カツオの一本釣り	尾鷲市立尾鷲小学校	6	九鬼 さや
入選	クジラのおよぐ海	四日市市立富洲原小学校	4	高橋 瑛大
	志摩の魅力詰め合わせ	志摩市立磯部小学校	4	廣 七海
	大漁を願って	志摩市立大王小学校	5	坂中 咲千

3. 中学校の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	青い海と伝統の技	紀宝町立矢渕中学校	2	前田 泰志
三重県教育委員会教育長賞	海女漁	志摩市立磯部中学校	2	西井 うらら
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	春をよぶわかめ漁	伊勢市立五十鈴中学校	2	中村 日鞠
入選	三重の美しい海	桑名市立明正中学校	1	後藤 美杏
	三重の宝物	三重大学教育学部附属中学校	2	服部 日葵
	The upside view	志摩市立大王中学校	2	田畑 ニコル



作品コンクール

三重県知事賞受賞作品

1. 小学校低学年の部



「ファンタスティック海」
桑名市立多度東小学校3年 岡田 絵舞



2. 小学校高学年の部



「志摩市の豊かな海」
志摩市立神明小学校6年 東山 利香



3. 中学校の部



「青い海と伝統の技」
紀宝町立矢渕中学校2年 前田 泰志





作品コンクール

習字

- **応募資格** 三重県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る）及び特別支援学校（小学部、中学部）の児童、生徒
- **募集部門** 1. 小学校低学年の部（1年生～3年生）
2. 小学校高学年の部（4年生～6年生）
3. 中学校の部
- **募集期間** 令和7年4月1日（火）～6月6日（金）
- **題材** 小学校低学年の部（1年生～3年生）「うみ」
小学校高学年の部（4年生～6年生）「豊かな海」
中学校の部「豊漁の海」

応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	合計
412点	1,215点	637点	2,264点

1. 小学校低学年の部

賞名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	鈴鹿市立旭が丘小学校	2	今西 美桜
三重県教育委員会教育長賞	三重大学教育学部附属小学校	2	竹谷 伊十
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	三重大学教育学部附属小学校	3	本橋 ひまり
入選	桑名市立多度北小学校	3	伊藤 夏葵
	三重大学教育学部附属小学校	2	山口 華蓮
	志摩市立鶴方小学校	3	三浦 巧己

2. 小学校高学年の部

賞名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	四日市市立常磐西小学校	6	森本 季依奈
三重県教育委員会教育長賞	鈴鹿市立一ノ宮小学校	6	皆川 凜太郎
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	桑名市立大山田東小学校	5	藤島 優弥
入選	志摩市立神明小学校	6	谷 玲奈
	志摩市立神明小学校	6	大山 愛心
	志摩市立鶴方小学校	5	曾我 夏葉

3. 中学校の部

賞名	学校名	学年	氏名
三重県知事賞	志摩市立文岡中学校	3	東海 こあ
三重県教育委員会教育長賞	志摩市立文岡中学校	2	松尾 ひまり
三重県漁業協同組合連合会代表理会長賞	志摩市立浜島中学校	2	西飯 心侶
入選	川越町立川越中学校	1	伊藤 真理彩
	度会町立度会中学校	3	田中 心菜
	度会町立度会中学校	3	山下 真白



大会PR・歓迎装飾

大会の開催地となった志摩市並びに南伊勢町では、市庁舎、町庁舎、志摩市阿児アリーナ、近鉄鵜方駅前、懸垂幕や横断幕が掲げられ、大会開催を周知しました。近鉄とJR津駅前三重県水産会館前には三重県漁業協同組合連合会により、看板が設置されました。



開催地決定横断幕 志摩市役所ロビー



開催地決定横断幕 近鉄鵜方駅前



開催地決定懸垂幕 南伊勢町役場南勢庁舎



開催地決定懸垂幕 南伊勢町役場南島庁舎



開催日決定懸垂幕 志摩市阿児アリーナ



開催日決定懸垂幕 南伊勢町役場南勢庁舎



開催日決定懸垂幕 南伊勢町役場南島庁舎



看板 三重県水産会館前



広報制作物等

大会PR・歓迎装飾

本大会及び関連行事を周知し開催気運の醸成を図るため、主要な交通手段である各会場の最寄り駅にポスター広告等を行うとともに、沿線の車両内広告を行いました。

期間：令和7年10月13日（月・祝）～11月9日（日）



近鉄桑名駅（B2ポスター）



近鉄伊勢市駅（B2ポスター）



車両内広告デザイン



近鉄車両内広告（B3ポスター）



改札ステッカーデザイン



近鉄桑名駅（自動改札ステッカー）



階段ステップデザイン



近鉄鶴方駅（鳥羽方面階段ステップ）



広報制作物等

大会記念品



伊勢極み海老せんべい



松阪牛パイ



伊賀忍者伝承のお菓子 かたやき小焼き



しじみの味噌汁



南伊勢 青の香り



ひじきご飯



パウチゼリーなるみ



ひのきの香り



伊勢茶ティーバッグ



あこや真珠チャーム



大会記念袋

パンフレット等



大会開催日決定チラシ



子供向けリーフレット



第2685回 関東・中部・東北自治宝くじ



広報制作物等

グッズ類



ボールペン（海洋プラスチック再生）



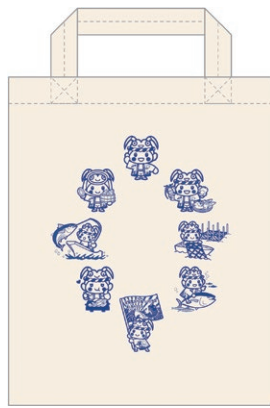
おさかな付箋



缶バッジ（とこまるデザイン15種）



エコバッグ



コットンバッグ



ポケットティッシュ



タオル



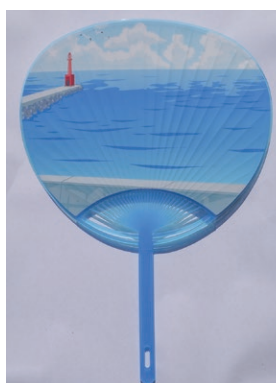
タオル



マフラータオル



ポッピングシール



工作用うちわ



あおさのり5gパック



広報制作物等

スタッフ用品



とこまる法被 (前)



とこまる法被 (後)



とこまる着ぐるみ (前)



子供用法被 (前)



子供用法被 (後)



とこまる着ぐるみ (後)



スタッフポロシャツ (前)



スタッフジャンパーネイビー (前)



スタッフジャンパーライトブルー (前)



スタッフポロシャツ (後)



スタッフジャンパーネイビー (後)



スタッフジャンパーライトブルー (後)



協賛・協力団体等

協賛をいただいた皆さま

協賛金

三重県内漁協系統団体



三重県漁業協同組合連合会

東日本信用漁業協同組合連合会三重支店
 共水連三重県事務所
 三重県漁業共済組合
 日本漁船保険組合三重県支所
 全国漁業信用基金協会三重支所

伊弉島漁業協同組合／赤須賀漁業協同組合／四日市市漁業協同組合
 鈴鹿市漁業協同組合／白塚漁業協同組合／松阪漁業協同組合
 伊勢湾漁業協同組合／鳥羽磯部漁業協同組合／
 三重外湾漁業協同組合／熊野漁業協同組合／紀南漁業協同組合
 三重県ばっち網漁業協同組合／三重県漁協青壮年部連絡協議会
 三重県漁協女性部連合会／三重県漁業操業安全協会
 三重県黒のり養殖研究会／三重県海水養魚協議会

	神前タクシー 有限会社	株式会社 辰也造船所	
日本たばこ産業株式会社		三重県漁港漁場協会	
伊勢名物 赤福	100th 的矢かき 佐藤養殖場		

公益社団法人三重県バス協会
 片田真珠養殖漁業協同組合
 三重県森林組合連合会
 三重県漁港建設協会
 三重県真珠養殖漁業協同組合
 三重県木材組合連合会
 神明真珠養殖漁業協同組合
 越賀真珠漁業協同組合
 三重県商工会連合会
 立神真珠養殖漁業協同組合
 三重県農業協同組合中央会
 船越真珠養殖漁業協同組合
 三重県漁業士会

協賛品



県内高校生の協力

看板

FSC認証取得の尾鷲ヒノキ製の三重県実行委員会事務局看板は、令和4年度「高文祭書道部門展」で特賞を受賞した県立尾鷲高等学校の橋本野愛（のあ）さん（当時3年）に筆書きいただきました。



カウントダウンボード

三重県産ひのきを使用した2016年G7伊勢志摩サミット、2023年G7三重・伊勢志摩交通大臣会合のカウントダウンボードを活用し、県立伊勢工業高等学校電気科の皆さんが大会のテーマなどをレーザーで彫り込んで製作いただきました。



プランターカバー

県内の工業高等学校等9校（桑名工業、四日市工業、四日市中央工業、津工業、伊賀白鳳、松阪工業、伊勢工業、伊勢まなび、尾鷲）の皆さんに大会で使用した木製プランターカバーを製作していただきました。製作にあたり、県内の木材加工場や森林体験を経て三重県の森と海のつながりを学びました。





豊かな海づくり大会推進委員会規約

第1章 総則

(名称)

第1条 この委員会は、豊かな海づくり大会推進委員会と云う。

(事務所)

第2条 この委員会は、事務所を東京都中央区新川全漁連内におく。

第2章 目的および事業

(目的)

第3条 この委員会は、全国豊かな海づくり大会を実施することにより、水産資源の保護、増殖の啓蒙、普及および漁場環境の保全を図り、豊かな海づくりに寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国豊かな海づくり大会の開催
- (2) 水産資源保護増殖に関する啓蒙普及事業
- (3) その他この委員会の目的達成に必要な事業

(中央表彰委員会等)

第5条

- (1) 全国豊かな海づくり大会の表彰行事を行うため中央表彰委員会および中央審査委員会をおく。
- (2) 中央表彰委員会および中央審査委員会の委員は別に定める。

第3章 会員

(会員)

第6条 この委員会の会員は正会員と賛助会員で構成する。

第4章 役員および幹事

(役員および幹事)

第7条 この委員会に会長、副会長、顧問、監事、幹事及び代表幹事をおく。

また、必要に応じ相談役を置くことができる。

- (1) 会長、副会長、顧問、相談役は、委員会で選任・委嘱する。
- (2) 監事は全漁連常勤監事をもってあてる。
- (3) 幹事は正会員団体に所属する役員（各団体1名）で、その団体が推薦した者とする。また、代表幹事は幹事会で選任する。
- (4) 相談役の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- (5) 顧問のうち、全漁連前会長の任期は、全漁連会長退任後3年とする。

第5章 委員会および幹事会等

(委員会)

第8条

- (1) 委員会は会長が必要と認めたととき招集する。
- (2) 委員会は正会員団体の長またはこれに準ずる者で構成する。

(幹事会)

第9条 委員会の下に幹事会をおき、会長は必要あるとき、幹事を招集する。

(その他の委員会)

第10条 海づくり大会に係る開催のあり方等を検討・整理するため、豊かな海づくり大会あり方検討委員会をおくことができる。

第6章 事業年度

(事業年度)

第11条 この委員会の事業年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。

附則

この規約は、令和3年1月12日から実施する。

全国豊かな海づくり大会運営要領

昭和56年 4月30日制定 昭和59年 3月26日改正
 昭和60年 2月 4日改正 平成 8年 5月14日改正
 平成20年 1月31日改正 平成29年10月24日改正

全国豊かな海づくり大会（以下「大会」という。）の開催、運営に関しては、豊かな海づくり大会推進委員会（以下「本会」という。）の規約に定めるほか、この要領の定めるところによる。

1. 開催の趣旨

大会は、水産資源維持培養と海その他の水面の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めるための幅広い国民的行事として行い、水産業の振興に資する。

2. 開催の主体

(1) 大会は、本会と開催する都道府県（以下「開催県」という。）との共催とし、大会の会長は、本会最高顧問の衆議院議長とする。但し、衆議院の解散により、大会開催日に衆議院議長が不在の場合は、前衆議院議長を大会会長とすることができる。

(2) 大会会長が大会出席不能の場合は、あらかじめ大会会長が指名する者を大会会長代理とする。但し、大会会長が大会会長代理を指名することができない場合は、豊かな海づくり大会推進委員会会長が指名する者を大会会長若しくは大会会長代理とする。

3. 開催の申し出

大会の開催を希望する都道府県知事は、書面をもって原則として開催2年前の9月末日までに申し出るものとする。

4. 開催県の決定

本会は、大会の開催県を開催2年前の11月末日までに決定するものとする。

5. 名称

大会の正式名称は、「第〇〇回全国豊かな海づくり大会」とする。

6. テーマ

開催県は、大会の開催に当たって、本会と協議のうえ、開催の場所、都道府県民の意向、都道府県政の方針等を考慮して、大会テーマを定めるものとする。

7. 防災対策

開催県は、大会開催に当たって、津波等の災害対策を講ずるとともに、防災関係当局に積極的に協力していくものとする。

8. その他

この要領に定めるものの他、大会の開催、運営等に関する必要な事項については、本会が定めるものとする。

豊かな海づくり大会推進委員会役員・幹事名簿

令和7年11月9日現在

役職	氏名	所属・役職名
最高顧問	額賀福志郎	衆議院議長
会長	坂本 雅信	全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 (公財) 海と渚環境美化・油濁対策機構 理事長 (公社) 全国豊かな海づくり推進協会 会長
顧問	枝元 真徹	(一社) 大日本水産会 会長
	稲葉 延雄	日本放送協会 会長
副会長	高橋 正征	(公社) 日本水産資源保護協会 会長
委員	黒萩 真悟	(一社) 漁業情報サービスセンター 会長
	山田 智昭	(一財) 中央漁業操業安全協会 理事長
	渥美 雅也	(一財) 東京水産振興会 会長
	廣野 淳	(一社) マリノフォーラム21 代表理事会長
	田中 郁也	(公社) 全国漁港漁場協会 会長
	谷 公一	全国内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長
代表幹事	三浦 秀樹	全国漁業協同組合連合会 常務理事
幹事	坂本 幸彦	(公財) 海と渚環境美化・油濁対策機構 専務理事
	熊谷 徹	(公社) 全国豊かな海づくり推進協会 専務理事
	長岡 英典	(一社) 大日本水産会 常務理事
	渥美 雅也	(一財) 東京水産振興会 会長
	遠藤 進	(公社) 日本水産資源保護協会 専務理事
	廣野 淳	(一社) マリノフォーラム21 代表理事会長
	森田 正博	(公社) 全国漁港漁場協会 業務執行理事 常務理事
	藤田 真	(一社) 漁業情報サービスセンター 常務理事
	井澤 由貴	日本放送協会メディア総局 展開センター チーフ・プロデューサー
	中奥 龍也	全国内水面漁業協同組合連合会 専務理事
監事	杉田 成	全国漁業協同組合連合会 常任監事



第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 この会は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、第44回全国豊かな海づくり大会（以下「大会」という。）を開催するため、必要な事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 大会の開催に必要な企画及び運営に関する事業。
- (2) 関係機関及び団体との連絡調整等に関する事業。
- (3) その他目的を達成するために必要な事業に関する事業。

第2章 組 織

(構成)

第4条 実行委員会は、会長、副会長、委員、代表監事、監事、顧問及び参与（以下「委員等」という。）で構成する。

- 2 会長は、三重県知事を充てる。
- 3 副会長は、副知事及び三重県漁業協同組合連合会代表理事会長、開催地市町長を充てる。
- 4 委員は、別表に掲げる職にある者を充てる。
- 5 代表監事は、東日本信用漁業協同組合連合会三重支店執行役員を充て、監事は、三重県会計管理者兼出納局長を充てる。
- 6 顧問は、三重県議会議長、三重県議会環境生活農林水産常任委員会委員長及び開催地市町議会の議長を充てる。
- 7 参与は、報道機関とし、別表に掲げる職にある者を充てる。

(委員等の職務)

第5条 会長は、実行委員会の会務を総理し、実行委員会を代表する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたとき及び会長が特定の行為につき委任したときは、その職務を代理する。
- 3 委員は、この会則に従い議事の審議をする。
- 4 代表監事及び監事は、実行委員会の財務を監査する。
- 5 顧問は、大会の運営方針に関し助言する。
- 6 参与は、大会の情報発信等に関し助言する。

(委員等の任期)

第6条 委員等の任期は実行委員会設立の日から第18条の規定により実行委員会が解散する日までとする。ただし、就任時におけるそれぞれの所属機関又は団体の役職を離れたときは、その後任者が前任者の残任期間

を務めるものとする。

- 2 会長は、特別の事由があるときは、委員等を解任することができる。

(委員等の報酬及び旅費)

- 第7条 委員等への報酬は支給しないものとする。ただし、会長が必要と認めた場合には支給することができる。
- 2 委員等へ支給する旅費は、三重県職員の例に準じて支給する。

第3章 会 議

(総会)

- 第8条 実行委員会の会議（以下「総会」という。）は、会長、副会長及び委員（以下「実行委員」という。）並びに、代表監事、監事、顧問及び参与をもって構成する。
- 2 総会は、必要に応じて会長が招集し、その議長は会長又は会長が指名した者がこれにあたる。

- 3 総会は、次に掲げる事項を審議し、決定する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 大会の企画及び運営に関する基本事項に関すること。
- (3) 事業計画及び事業報告に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 幹事に委任する事項に関すること。
- (6) その他大会の開催に関する重要な事項に関すること。

- 4 総会は、実行委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 5 実行委員は、事故その他のやむを得ない理由により総会に出席できないときは、代理人又は書面をもって議決権を委任することができる。この場合において、前項の規定の適用については、出席したものとみなす。

- 6 総会の議事は、出席した実行委員（代理人及び書面を含む。）の議決権の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 7 会長は、必要があると認めるときは、事前に送付した議案に対し書面をもって表決し、総会の議決に代えることができる。

- 8 会長は、必要があると認めるときは、総会に委員等以外の者の出席を求めることができる。

(会長の専決処分)

第9条 会長は緊急を要するため総会を招集する時間的余裕がないと認めるときは、前条第3項各号に掲げる事項を専決処分することができる。

- 2 会長は、前項の規定により専決処分したときは、次の総会においてこれを報告し、その承認を求めなければならない。

第4章 幹 事 会

(幹事会)

第10条 実行委員会に幹事会を置く。



- 2 幹事会は、幹事長、副幹事長及び幹事（以下「幹事等」という。）をもって構成する。
- 3 幹事長は、三重県農林水産部長を充てる。
- 4 副幹事長は、三重県漁業協同組合連合会常務理事及び開催地市町の水産関係部長をもって充てる。
- 5 幹事は、会長が別に指名する者をもって充てる。
- 6 幹事会は、幹事長が必要に応じて招集し、その議長となる。
- 7 幹事会の会議は、次の事項を審議する。
 - (1) 実行委員会に付議すべき事項に関すること。
 - (2) その他大会の開催に関し、会長が必要と認める事項に関すること。
- 8 第6条及び第7条の規定は、幹事等について、第8条第4項から第7項までの規定は、幹事会について、それぞれ準用する。この場合において、第6条第1項、第7条第1項から第2項までに規定中の「委員等」及び第8条第4項から第7項までに規定中の「実行委員」とあるものは「幹事等」と第8条第3項から第6項までの規定中の「総会」とあるものは「幹事会」と読み替えるものとする。
- 9 前3項に定めるもののほか、幹事会の会議の運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。
(幹事長及び副幹事長の職務)
- 第11条 幹事長は、幹事会の会務を総理し、幹事会を代表する。
 - 2 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故があるとき、又は幹事長が欠けたときは、その職務を代理する。
(専門部会)
- 第12条 幹事会には、専門的な観点から審議を行うため、次に掲げる専門部会を置くことができる。
 - (1) 総務・広報部会
 - (2) 式典・放流行事部会
 - (3) 宿泊・輸送・警備部会
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、幹事長が必要と認めて設置する専門部会
- 2 専門部会は、幹事長が指名する部会員（以下、「部会員」という。）をもって構成し、幹事長が必要に応じて招集する。
- 3 専門部会の部会長は、前項の規定により指名された者において互選する。
- 4 専門部会の部会長は、専門部会で決議した事項を幹事会に報告する。
- 5 第6条及び第7条の規定は、部会員について、第8条第4項から第7項までの規定は、専門部会について、それぞれ準用する。この場合において、第6条第1項、第7条第1項から第2項までに規定中の「委員等」及び第8条第4項から第7項までに規定中の「実行委員」とあるものは「部会員」と第8条第3項から第6項までの規定中の「総会」とあるものは「専門部会」と読み替えるものとする。

- 6 専門部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

(部会長の職務)

第13条 部会長は、専門部会を代表し、会務を総理する。

- 2 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会員の互選によって部会長代理を決定する。

第5章 事務局

(事務局)

第14条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を三重県農林水産部に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

第6章 経費及び会計

(経費)

第15条 実行委員会の経費は、負担金及びその他の収入をもって充てる。

(事業計画、予算及び決算)

第16条 実行委員会の事業計画及び収支予算は、総会の議決により定め、収支決算は代表監事及び監事の監査を経て、総会の議決を得なければならない。

(会計)

第17条 実行委員会の会計年度は、毎年4月1日（初年度にあっては、実行委員会の設立の日）に始まり翌年3月31日に終了する。ただし、次条第1項の規定により解散したときは、この限りではない。

- 2 実行委員会の会計に関し必要な事項は、三重県の財務に関する諸規定に準ずるものとするほか、会長が別に定める。

第7章 解散

(解散)

第18条 実行委員会は、第2条の目的が達成され事業報告及び決算について議決を受けた後に解散する。

- 2 実行委員会が解散するとき有する残余財産は、三重県に帰属するものとする。

第8章 補則

(事故の処理)

第19条 実行委員会は、第3条各号に掲げる事業に起因する事故が生じた場合は、委員等の協力を得て、これを処理しなければならない。

(委任)

第20条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、令和5年10月12日から施行する。

この会則は、令和6年7月4日から施行する。



第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会委員一覧

区分	組織名	職	
顧問	三重県議会	議長	
	三重県議会環境生活農林水産常任委員会	委員長	
	志摩市議会	議長	
	南伊勢町議会	議長	
会長	三重県	知事	
副会長	三重県	副知事	
	三重県漁業協同組合連合会	代表理事会長	
	志摩市	市長	
	南伊勢町	町長	
委員 (沿海市町、市町代表)	木曽岬町	町長	
	桑名市	市長	
	川越町	町長	
	四日市市	市長	
	鈴鹿市	市長	
	津市	市長	
	松阪市	市長	
	明和町	町長	
	伊勢市	市長	
	鳥羽市	市長	
	大紀町	町長	
	紀北町	町長	
	尾鷲市	市長	
	熊野市	市長	
	御浜町	町長	
	紀宝町	町長	
	三重県市長会	会長	
	三重県町村会	会長	
	委員 (国、団体等)	鳥羽海上保安部	部長
		公益財団法人三重県水産振興事業団	理事長
三重県内水面漁業協同組合連合会		代表理事会長	
三重県真珠養殖連絡協議会		会長	
三重県漁業共済組合		組合長理事	
三重県 J F 共済推進本部 (共水連三重県事務所)		推進本部本部長	
全国漁業信用基金協会三重支所		運営委員長	
日本漁船保険組合三重支所		運営委員長	
三重県漁港漁場協会		会長	
三重県漁業士会		会長	
三重県漁協青壮年部連絡協議会		会長	
三重県漁協女性部連合会		会長	
公益社団法人三重県観光連盟		代表理事(会長)	
協同組合三重県物産振興会		専務理事	
三重県農業協同組合中央会		代表理事会長	
三重県森林組合連合会		代表理事会長	
三重県商工会議所連合会		会長	
三重県商工会連合会		会長	

区分	組織名	職
委員 (国、団体等)	公益社団法人三重県バス協会	会長理事
	一般社団法人三重県タクシー協会	会長
	東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)	管理部企画課長
	近畿日本鉄道株式会社	名古屋統括部長
	一般社団法人 日本旅行業協会 中部支部 三重地区委員会	委員長
委員 (県関係)	一般社団法人 三重県旅行業協会 (全国旅行業協会 三重県支部)	会長
	三重県総務部	部長
	三重県政策企画部	部長
	三重県地域連携・交通部	部長
	三重県地域連携・交通部南部地域振興局	局長
	三重県防災対策部	部長
	三重県医療保健部	部長
	三重県子ども・福祉部	部長
	三重県環境生活部	部長
	三重県環境生活部環境共生局	局長
	三重県農林水産部	部長
	三重県雇用経済部	部長
	三重県観光部	部長
	三重県県土整備部	部長
	三重県県土整備部	理事
三重県教育委員会	教育長	
三重県警察本部	本部長	
代表監事 監事	東日本信用漁業協同組合連合会三重支店	執行役員
	三重県出納局	会計管理者兼出納局長
参与 (報道関係)	伊勢新聞社	取締役編集局長
	朝日新聞社 津総局	総局長
	毎日新聞社 津支局	支局長
	中日新聞社 三重総局	総局長
	読売新聞社 津支局	支局長
	中部経済新聞社 三重支社	支社長
	共同通信社 津支局	支局長
	時事通信社 津支局	支局長
	日本経済新聞社 津支局	支局長
	日本放送協会 津放送局	局長
	CBCテレビ 三重支社	支社長
	東海テレビ放送 三重支社	支社長
	名古屋テレビ放送 三重支社	支社長
	中京テレビ放送 三重支局	支局長
	三重テレビ放送株式会社	代表取締役社長
	三重エフエム放送株式会社	代表取締役社長
	夕刊三重新聞社	代表取締役社長
	吉野熊野新聞社	代表取締役
	特定非営利法人いなべエフエム	理事長
	株式会社シー・ティー・ワイ	代表取締役社長



幹事会名簿

区分	組織名	職
幹事長	三重県農林水産部	部長
副幹事長	三重県漁業協同組合連合会	常務理事
	南伊勢町	水産農林課長
	志摩市	水産農林部長
幹事	三重県市長会	事務局長
	三重県町村会	事務局長
	(公財) 三重県水産振興事業団	副理事長
	三重県内水面漁業協同組合連合会	参事
	三重県真珠養殖連絡協議会	事務局長
	三重県漁業共済組合	常務理事
	三重県 J F 共済推進本部 (共水連三重県事務所)	推進本部運営委員(所長)
	全国漁業信用基金協会三重支所	監事・運営委員
	日本漁船保険組合三重支所	運営委員(支所長)
	東日本信用漁業協同組合連合会 三重支店	統括支店長
	三重県漁港漁場協会	事務局長
	三重外湾漁業協同組合	代表理事組合長
	鈴鹿市漁業協同組合	代表理事組合長
	鳥羽磯部漁業協同組合	代表理事組合長
	(公社) 三重県観光連盟	専務理事
	協同組合三重県物産振興会	専務理事
	三重県農業協同組合中央会	役員室長
	三重県森林組合連合会	理事参事
	三重県商工会議所連合会	専務理事
	三重県商工会連合会	事務局長
	(公社) 三重県バス協会	専務理事

区分	組織名	職
幹事	一般社団法人三重県タクシー協会	専務理事
	東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)	管理部企画課課長
	近畿日本鉄道株式会社名古屋統括部	運輸部管理課長
	(一社) 日本旅行業協会中部支部	三重地区委員会委員長
	(一社) 全国旅行業協会三重県支部	事務局長
	三重県総務部	副部長(財政運営担当)
	三重県政策企画部	副部長
	三重県地域連携・交通部	副部長
	三重県地域連携・交通部 南部地域振興局	次長
	三重県防災対策部	副部長
	三重県医療保健部	副部長
	三重県子ども・福祉部	副部長
	三重県環境生活部	副部長
	三重県環境生活部 環境共生局	次長
	三重県農林水産部	次長(水産振興担当)
	三重県雇用経済部	副部長
	三重県観光部	副部長
	三重県県土整備部	副部長
	三重県教育委員会事務局	副教育長
	三重県南勢志摩地域活性化局	局長
	三重県伊勢農林水産事務所	所長
	三重県警察本部交通規制課	課長
	三重県警察本部警備第二課	課長
	第四管区海上保安本部警備救難部 警備課	課長
	鳥羽海上保安部警備救難課	課長



第44回全国豊かな海づくり大会三重県実施本部設置要綱

(趣旨)

第1条 第44回全国豊かな海づくり大会（以下「大会」という。）を円滑に運営するため、「第44回全国豊かな海づくり大会三重県実施本部（以下「実施本部」という。）」を設置する。

(組織及び所掌事務)

第2条 実施本部は、三重県職員及び開催市町職員等をもって組織する。

2 実施本部に別表第1に掲げる部及び班を置き、その所掌事務は、同表右欄に掲げるとおりとする。

(職の設置)

第3条 実施本部に本部長、副本部長及び本部員を置く。

2 本部長は三重県知事を、副本部長は三重県副知事、三重県危機管理統括監、志摩市長及び南伊勢町長を、副本部長代理は農林水産部長をもって充てる。

3 本部員は、別表第2に掲げる職にある者をもって充てる。

4 実施本部の運営責任者は、農林水産部次長（水産振興担当）をもって充てる。

5 実施本部には部長、副本部長、班長、班員を置く。

6 本部長は、必要があると認めるときは、前項に規定する職以外の職を置くことができる。

(職務)

第4条 本部長は、実施本部の事務全体を総理する。

2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、予め指定した副本部長が、その職務を代理する。

3 本部員は、本部長の命を受け、実施本部の運営に参画する。

4 運営責任者は、実施本部の事務を総括する。

5 部長は、部の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

6 班長は、班の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

7 班員は、担当事務を掌理し、事務に従事する。

(庶務)

第5条 実施本部の庶務は、三重県農林水産部全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチームにおいて処理する。

(雑則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、実施本部の組織及び運営に関して必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和7年5月20日から施行する。

2 この要綱は、令和7年11月9日限り、その効力を失う。

別表第1（第2条関係） 所掌事務

組織名		業務内容	
部名	班名		
1 総括部	1-1 実施本部運営班	実施本部の総括、大会運営の進行管理 関係機関との連絡調整、報道機関対応、判定会議の運営 他部の事務に属さないこと	
	1-2 総務班	県民対応等の窓口、荒天時対応の補助	
2 特別接伴部	2-1 S V I P 接伴班	SVIPとの連絡調整・受付・接伴	
3 作品御覧・御懇談部	3-1 総務・招待者管理班	作品御覧・御懇談の総括管理、招待者の名簿管理	
	3-2 入場管理班	作品御覧・御懇談招待者の受付・手荷物検査	
	3-3 作品御覧運営班	絵画・習字作品御覧の運営進行管理	
	3-4 御懇談運営班	御懇談の運営進行管理	
	3-5 救護・防災班	救護及び防災対策	
4 式典行事部	4-1 総務・招待者管理班	式典行事の総括管理、招待者の名簿管理	
	4-2 入場者管理班	招待者の受付、手荷物検査	
	4-3 会場案内班	会場内の総合案内、招待者の会場内誘導	
	4-4 式典行事運営班	式典行事の運営進行管理	
	4-5 接遇班	招待者の接遇等	
	4-6 放流魚御覧運営班	放流魚御覧の管理運営、お手渡し魚の管理	
	4-7 救護班	救護対策	
	4-8 会場警備班	会場及び周辺の警備、防災対策	



組織名			業務内容	
部名	班名			
5	海上歓迎・放流行事部	5-1	総務・招待者管理班	海上歓迎・放流行事の総括管理、招待者の名簿管理
		5-2	入場者管理班	招待者の受付、手荷物検査
		5-3	会場案内班	会場内の総合案内、招待者の会場内誘導
		5-4	海上歓迎行事運営班	海上歓迎行事の運営進行管理
		5-5	放流行事運営班	放流行事の運営進行管理
		5-6	接遇班	招待者の接遇等
		5-7	救護班	救護対策
		5-8	会場警備班	会場及び周辺の警備、防災対策
6	関連行事部	6-1	総括管理班	関連行事会場の総括管理、主催者との連絡調整
7	宿泊・輸送部	7-1	総務・総括管理班	宿泊・輸送業務全体の総括管理、総合案内
		7-2	指定宿泊施設班	招待者宿泊施設での受付、輸送バス添乗
		7-3	指定集合地班	指定集合地での受付、輸送バス添乗
		7-4	式典行事輸送班	式典行事における輸送等
		7-5	海上歓迎・放流行事輸送班	海上歓迎・放流行事における輸送等

別表第2（第3条関係） 本部員

三重県総務部長
三重県デジタル推進局長
三重県政策企画部長
三重県東京事務所長
三重県地域連携・交通部長
三重県スポーツ推進局長
三重県南部地域振興局長
三重県防災対策部長
三重県医療保健部長
三重県子ども・福祉部長
三重県環境生活部長
三重県環境共生局長
三重県雇用経済部長
三重県観光部長
三重県県土整備部長
三重県県土整備部理事
三重県会計管理者兼出納局長
三重県企業庁長
三重県病院事業庁長
三重県教育長
三重県警察本部長
志摩市副市長
南伊勢町副町長



「第44回全国豊かな海づくり大会」会場運営管理要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、令和7年11月9日開催の「第44回全国豊かな海づくり大会～美し国（うましくに）みえ大会～」(以下「海づくり大会」という)の円滑な運営と秩序の保持を図るため、海づくり大会会場(以下「会場」という)における運営管理に係る必要な事項を定めるものとする。

(運営管理者)

第2条 会場の運営管理者(以下「管理者」という)は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会会長とする。

2 管理者の権限に属する業務の処理は、大会実施本部員の職員(以下「職員」という)が行う。

(適用範囲)

第3条 この要綱において適用する会場及びその区域は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 式典行事会場：志摩市阿児アリーナ及びその周辺のうち、管理者が指定する区域
- (2) 海上歓迎・放流行事会場：宿田曾漁港及びその周辺のうち、管理者が指定する区域
- (3) 絵画・習字作品御覧及び御懇談会場：管理者が指定する区域

(持ち込み禁止物件)

第4条 何人も、会場に次の各号に掲げる物件を持ち込んで서는ならない。ただし、管理者が特に認めたときは、この限りでない。

- (1) 凶器
- (2) 模造刀、玩具銃、護身用具、棒状の物(介護用具を除く)等凶器となり得る物
- (3) 毒物、劇物、爆発物、火薬類、油類、火気(ライターを含む)、薬品類(医薬品を除く)、工具類その他の危険物
- (4) カッターナイフ、ハサミ等の刃物類
- (5) 水筒、瓶類、缶類(スプレー缶を含む)及びペットボトル類を含む飲料及び容器
- (6) 旅行鞆、手提げ鞆等の荷物類
- (7) 傘類
- (8) 動物類(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条に規定する身体障害者補助犬を除く)
- (9) 酒類

(10) ワイヤレスマイク、ドローン、ラジコン機器(航空機、自動車、船舶等)等電波を送受信する機器、無線通信機器(携帯電話、スマートフォン等の携帯端末(以下「携帯電話等」という)を除く)、タブレット端末、ノートPC

(11) 拡声器、オーディオ機器、ポータブルゲーム機、楽器、サーチライト、レーザーポインター、反射鏡等、音又は光を発するもので、使用方法により他の入場者や海づくり大会の運営に迷惑となるおそれのある物

(12) カメラ、ビデオカメラ、三脚等の撮影機器

(13) 前各号に定めるもののほか、海づくり大会の円滑な運営と秩序の保持を妨げ、又は妨げるおそれのある物

(禁止行為)

第5条 何人も、会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。ただし、管理者が特に認めた場合は、この限りでない。

- (1) 招待状又は来場者識別証を携行せずに会場内へ入場すること。
- (2) 許可を受けずに撮影を行うこと(携帯電話等に付属された機能を用いて撮影する場合を含む)。
- (3) 立入を制限し、又は禁止された区域に正当な理由なく立ち入ること。
- (4) ドローン等の飛行物体、ラジコン機器(航空機、自動車、船舶等)を侵入等させること。
- (5) 酒気を帯びて会場内へ入場すること。
- (6) 通行の妨害となる行為をすること。
- (7) 威嚇又は喧嘩にわたる行為を行うこと。
- (8) 会場内の施設、工作物、器物、装置等を汚損、若しくは破損し、又はみだりに操作すること。
- (9) 関係者に面会を強要すること又は会場内に居座ること。
- (10) 所定の区域以外において火気を使用(喫煙を含む)又はゴミその他の汚物を廃棄すること。
- (11) 所定の区域以外への車両若しくは船舶等の進入、駐車、停泊又は駐輪をすること。
- (12) 抗議集会、デモ等会場秩序を乱すおそれのある行為をすること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、会場の秩序を乱し、海づくり大会の円滑な運営及び進行を妨害するような行為をすること。



(許可を要する行為)

第6条 会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為をしようとする者は、あらかじめ管理者の許可を受けなければならない。ただし、管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 文書、図面、写真、図書その他の印刷物等を掲示し、頒布又は散布すること。
 - (2) 掲示板、立看板、横断幕、懸垂幕、旗、のぼり、アドバルーン、風船、ゼッケン、ブラカード等を持ち込み、掲示、掲揚又は着用すること。
 - (3) ガスその他これに類似する火気を使用すること。
 - (4) 宣伝、勧誘、講演、集会、物品の販売又は寄付の募集その他これらに類する行為をすること。
 - (5) テント、小屋その他の工作物を設置すること。
- 2 管理者は、前項の許可をする場合において、必要な条件を付することができる。

(遵守事項)

第7条 何人も、会場において次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。ただし、管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 安全確保のため、手荷物等の検査に応じるとともに、持ち込み禁止物件など携行できない物件は管理者に預けること。
- (2) 管理者が交付した来場者識別証を外部から視認できるように携行するとともに、破損、亡失等の場合は、速やかに職員に申し出て指示を受けること。
- (3) 招待状及び顔写真のある本人確認書類（運転免許証、旅券、個人番号カード等）を携帯し、会場の警備を行う者が本人確認書類の提示を求めた場合にはこれに応じること。
- (4) 携帯品は管理者が交付した透明袋に入れて携行すること。
- (5) 職員の指示、案内、誘導等に従うこと。
- (6) 指定された場所において観覧すること。ただし、職員等が移動を指示した場合はこれに従うこと。
- (7) 携帯電話等の電源を切るか、マナーモードに設定すること。
- (8) ゴミ処理方法の遵守及び清潔維持に努めること。
- (9) 各自が火災、盗難その他の事故防止に努めること。
- (10) 感染予防対策について、主催者又は管理者等から特別の要請を出す場合には、これに従うこと。

(質問等)

第8条 管理者が必要と認める場合は、来場者等に対して質問をし、本人確認書類の提示を求め、又は必要な事項を指示することができる。

(入場の制限)

第9条 管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、会場への入場の拒否、行為の中止、会場からの退場、その者の負担による持ち物の撤去及びその他必要と認められる措置を命じ、又は管理者の許可なく侵入、放置等された物件に対し必要な措置を講じることができる。

- (1) 第4条の各号に掲げる禁止物件を持ち込んだ者若しくは持ち込もうとする者、又は当該物件
- (2) 第5条の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件
- (3) 許可なく第6条第1項の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件
- (4) 正当な理由なく、第7条の各号に掲げる事項を遵守しない者

(警備要請)

第10条 管理者は、三重県警察本部長及び第四管区海上保安本部長に対し、事前に警備要請を行うものとし、必要があると認める場合、職員は会場に配置されている警察官及び海上保安官に協力を求めることができる。

(告知)

第11条 管理者は、第4条から第9条までの内容について、会場に告知板を設置する方法等により、告知するものとする。

(雑則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、会場の運営管理に関し必要な事項は、管理者が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和7年7月1日から施行する。
- 2 この要綱の適用期間は、令和7年11月8日から同月9日までとする。



第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会事務局運営規程

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 この規程は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会会則第14条第2項の規定により、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会事務局(以下「事務局」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

第2章 事務局

(設置)

第2条 事務局は、三重県農林水産部内に置く。

(業務)

第3条 事務局は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会(以下「実行委員会」という。)に関する事務を処理する。

(組織)

第4条 事務局の組織は、別表第1のとおりとする。

(職員)

第5条 事務局には次の職を置く。

- (1) 事務局長
- (2) 事務局次長
- (3) 事務局員

2 前項の職員は、別表第2に掲げる三重県職員をもって充てる。

3 事務局長は、第1項に定める職員のほか、特に必要があるときは、会計年度任用職員等を置くことができる。

(職務)

第6条 事務局長は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会会長(以下「会長」という。)の命を受けて事務局を統括し、第5条第1項に掲げる職員(以下「事務局職員」という。)を指揮監督する。

2 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

3 事務局員は、上司の命を受けて担当の事務に従事する。

第3章 事務処理

(専決)

第7条 事務局長、事務局次長は、別表第3に掲げる事項について専決することができる。

2 前項の規定にかかわらず、その内容により専決することが適当と認められるものについては、前項の規定に準じて専決することができる。

(代決)

第8条 事務局長の専決事項につき、事務局長が不在のときは事務局次長が代決することができる。

2 前項の規定にかかわらず、重要又は異例に属すると認められるものについては、代決することができない。ただし、事務局長があらかじめ処理の方針を示したものについては、この限りではない。

3 事務局次長は、第1項及び第2項の規程により代決した事項については、速やかに事務局長に報告しな

ければならない。ただし、定例または軽易なものについては、この限りではない。

第4章 文 書

(文書管理)

第9条 施行する文書には、「豊海三」の記号及び会計年度の通ずる一連番号を付けなければならない。ただし、軽易な文書については、これを省略することができる。

(保存)

第10条 処理済みの文書は、編さんし、事務局長が指示する期間保存しなければならない。

(文書の取り扱い)

第11条 前2条に定めるもののほか、文書の取り扱いについては、三重県の例による。

第5章 公 印

(公印)

第12条 事務局で使用する公印の名称、寸法、ひな型及び書体は別表第4のとおりとする。

2 前項に定める公印の管理は事務局長とする。

3 この章に定めるもののほか、公印の取り扱いについては、三重県の例による。

第6章 服務及び旅費

(服務)

第13条 事務局職員にかかる服務の取り扱いは、三重県職員の例による。

(旅費)

第14条 事務局職員が実行委員会の用務のために行う旅行に関する旅費の額及びその支給方法については、三重県職員の例による。

2 事務局職員以外の者へ、実行委員会業務のために旅行を依頼したときは、費用弁償として、実行委員会から旅費を支給することができる。

3 前項の規定による旅費の額は、三重県職員の例による。

第7章 財務及び会計

(事業計画案の作成)

第15条 実行委員会の財務及び会計については別に定める。

第8章 補 則

第16条 この規程に定めるもののほか、事務局の運営に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

附 則

この規程は、第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会設立の日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。



別表第1（第4条関係）

事務局長 —— 事務局次長 —— 事務局員


別表第2（第5条関係）

事務局職名	三重県職員としての職名
事務局長	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム担当課長
事務局次長	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム総務企画班副参事兼班長
事務局員	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム職員

別表第3（第7条第関係）

区 分	専決事項
事務局長	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業計画に基づく各種事項の実施方針に関する事 2 事務局の組織及び運営に関する事 3 事務局の予算編成及び決算に関する事 4 各種規程の制定及び改廃に関する事 5 事務局次長の服務に関する事 6 事務局次長の旅行命令並びに復命の受理に関する事 7 総会、幹事会の開催及び運営に関する事 8 会長名をもってする比較的重要な事項に関する事
事務局次長	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業計画に基づく各種事項の実施に関する事 2 事務局員の服務に関する事 3 事務局員の旅行命令並びに復命の受理に関する事 4 部会の開催及び運営に関する事 5 寄附金及び協賛に関する事 6 刊行物の発行に関する事 7 会長名をもってする軽易又は定例に属する通知、照会、回答及び届出等に関する事

別表第4（第12条関係）

公印の名称	寸法	ひな型	書体
第44回全国豊かな海づくり大会 三重県実行委員会会長印	一辺30mm		てん書体
第44回全国豊かな海づくり大会 三重県実行委員会事務局長印	一辺27mm		てん書体



事務局員名簿

職名	氏名	三重県職員としての所属・職名
事務局長	多門 裕史	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 担当課長
事務局次長	沖 大樹	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 副参事兼班長
事務局員	清崎 雄一郎	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 副参事
	古澤 功次	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 課長補佐兼班長
	池田 良晃	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 主幹
	松永 幸子	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 係長
	山本 誉将	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 主査
	藤田 弘一	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 主査
	中村 卓世	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 行政実務研修員
	池村 美由紀	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 総務企画班 行政事務支援員
	山本 祥輝	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 班長
	小井 隆生	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 主幹兼係長
	横田 圭五	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 主査
	松田 将成	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 主任
	大川 雅人	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 主任
	柴田 尚希	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 式典運営班 主事
	村本 充	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 主査
	松島 悠	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 主査
	田上 健司	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 主査
	平谷 祐大	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 主任
西内 健	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 運営調整班 主事	
神谷 直明	全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム 全国豊かな海づくり大会準備事務支援員	

謝 辞

本県出身の故宮原九一元全国漁業協同組合連合会会長がその礎を築いた「全国豊かな海づくり大会」が、41年ぶりに、ここ三重県において開催できたことは大きな喜びです。

今回の開催にあたり、御支援、御協力をいただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

第44回全国豊かな海づくり大会 三重県実行委員会

発 行：令和8年3月

編 集：第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会事務局

（三重県農林水産部

全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム内）

〒514-0004 津市栄町1丁目954番地

※掲載写真、掲載記事の無断転載及び複製を禁じます。



第44回全国豊かな海づくり大会
三重県実行委員会